

烏帽子会会報

2014年秋号 Vol.57



福岡大学筑紫病院、立体駐車場完成！

平成23年3月に着工した新病院（右：平成25年5月7日開院）は立体駐車場（左：5階建6層）と患者さんの憩いの場となるヒーリングガーデンが出来上がり、平成26年6月にすべて完成しました。（甘木方面より撮影）

- 同窓会第17期理事・監事/支部長 4p
- 教授就任挨拶 5p
- 研究奨励賞論文抄録 11p
- 烏帽子会賞受賞の言葉 36p

福岡大学医学部同窓会

目 次

・会長挨拶	高木忠博	3
・福岡大学 医学部同窓会 第17期理事・監事 / 支部長名簿		4
・教授就任挨拶		
教授就任のご挨拶	今福信一	5
福岡大学烏帽子会挨拶	山浦健	6
教授就任の挨拶	坂田俊文	7
・総会報告		
第33回烏帽子会総会報告	武田研	8
・研究奨励賞		
平成26年度研究奨励賞選考報告	廣瀬伸一	10
・平成26年度授賞論文抄録		
Associations between lipid profiles and MACE in hemodialysis patients with percutaneous coronary intervention: from the FU-Registry (論文)	永田 濟	11
腎臓糸球体疾患における Th 細胞の分化の解析 (論文)	井福正和	12
Na ⁺ /Ca ²⁺ 輸送体拮抗薬を用いた睪島移植の工夫 (論文)	米良利之	12
Transforming growth factor β 1 (TGF β 1) and progesterone regulate matrix metalloproteinases (MMP) in human endometrial stromal cells. (論文)	伊東裕子	13
Contrast between innovator drug-and generic drug-induced renal dysfunction on coronary angiography (CONTRAST study) (論文)	中村 步	13
狭帯域光 (narrow-band imaging, NBI) を併用した拡大内視鏡による病理組織学像へのアプローチ: 早期胃癌における乳頭線癌の診断と臨床的意義 (論文)	金光 高雄	14
・平成27年度研究奨励賞募集要項		14
・在外研修報告		
ボストン留学で学んだ事	吉田康浩	15
在外研究留学報告	米良利之	16
・在外研修援助金募集要項		17
・平成25年度評議員会議事録		18
・各種報告		
学会報告	小川厚	23
第21回日本心血管インターベンション治療学会九州地方会を開催して	西川宏明	24
学生ボランティアを通して得たもの	石田匡宏	25
・学生対策報告		
Fukuoka-Keimyung University BSL Exchange Program 2014	松永彰	26
啓明大学での交換留学を終えて	中里玲	27
Fukuoka-Keimyung University BSL Exchange Program 2014	佐倉悠介	28
平成26年度烏帽子会主催福岡大学医学部 M4 年生激励会を終えて	竹下盛重	30
M4 激励会を終えて	標 玲央名	31
・支部便り		
長崎支部便り	立石訓己	32
・同窓会事業		
烏帽子会病診連携事業烏帽子会印について / 縁結び告知		33
・会員寄稿		
新レディコン開催! ~ OG と学生の交流 ~	正木稔子	34
・キャンパスだより		
烏帽子会賞を受賞して	後藤均	36
西日本医科学学生総合体育大会を終えて	近藤良紀	37
烏帽子会賞を受賞して	中川丞子	38
バスケットボール愛好会	藤尾真美子	38
	稲田悠希	39
・計報		
萱場光治君を偲ぶ	田中達朗	41
・医学部同窓会諸表 / 医局長・医長名簿		42 ~ 44
・教育職員人事 / 編集後記		45

会長挨拶

御挨拶

烏帽子会 会長 高木 忠 博 (1回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



この度、17期会長に再選頂きました。

今期は同級生の学部長を支え同窓会活動をさせて頂く事になり、烏帽子会の35年の歴史上最も結果を試される時期を迎えたと思います。

その最初の課題が国家試験低迷からの脱却への全面的な協力です。最近の後輩学生は少しずつ変わって来ているようで期待が膨らみます。同窓会講演会の準備や段取りに自発的、積極的に参加してくれますし、参加人数も増え今までのような欠席者は殆ど見られなくなりました。嫌々ながらの行動も見えず、講演者の話を聞きながら寝ている学生も殆ど居ない様になりました。また、5年生

の Student Doctor 認定式が今年から始まりましたが、父兄も50組近く参加する大変感動的な認定式で学生の士気も大変高くなると思われます。これは今迄の同窓会白衣贈呈式を学部長が発展させて認定式にしていたものです。

我々の同窓会活動と云うのは、後輩、母校へ純粋な応援と思います。小生の念仏「国家試験は、100人で100%」をこれから先も唱えながら行きますので同志の皆さんの御支援、御協力の程宜しく心から御願い申し上げます。

平成 27 年 医学部医学科入学試験の要点

	A方式推薦 (H26.3月卒業者 H27.3月卒見込者)	※地域枠推薦	大学入試センター試験 利用入試	一般入試系統別 一次選考	センター試験利用入試二次選考 一般入試系統別二次選考
出願期間	平成26年10月31日(金) ～11月8日(土)	平成26年10月31日(金) ～11月8日(土)	平成27年1月5日(月) ～16日(金)	平成26年1月5日(月) ～20日(火)	
試験日	平成26年11月23日(日)	平成26年11月23日(日)	大学入試センター試験 平成27年1月17日(土)・18日(日)	平成27年2月2日(月)	平成27年2月14日(土)
試験科目	外国語、数学、面接 調査書	外国語、数学、面接 調査書	外国語、国語、数学、 理科(2科目)	外国語、数学、理科 (2科目)、小論文	面接、調査書
募集人員	20人	10人	10人	70人	
合格発表	平成26年12月2日(火)	平成26年12月2日(火)	一次合格： 平成27年2月7日(土)	平成27年2月7日(土)	平成27年2月21日(土)
<p>福大医学部医学科を受験されるお子様のお名前をお教え下さい。 烏帽子会では毎年、福大医学部を受験される同窓生のお子様のお名前をお尋ねしております。大学によっては同窓生子女の合格者数が入学定員の半数に迫る大学もあるようですが、本学ではまだ10数名、入学定員の10%台に過ぎません。つきましては、色々の参考にしたいと考えていますので、お差し支えなければ受験されるお子様のお名前を下記までお知らせください。 TEL：092-865-6353 FAX：092-865-9484 E-mail：eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp 〒814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会</p>					<p>追加合格 平成27年2月21日(土)の二次合格発表と同時に、追加合格予定者に追加合格予定順位が通知されます。その中から3月31日までに追加合格者を決定し、本人に通知されます。</p>

※地域枠推薦該当者

- ①九州(沖縄を含む)・山口各県内に所在する高等学校または中等教育学校の出身者
- ②出願時において、本人または保護者(親など)が九州(沖縄を含む)・山口各県内に居住する者
- ③高等学校または中等教育学校を平成25年3月以降に卒業した者および平成27年3月卒業見込の者
- ④高等学校または中等教育学校を平成22年3月以降に卒業した者で、大学、短期大学(高等専門学校を含む)、大学校、専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)に在学中の者および平成25年3月以降に卒業した者

福岡大学 医学部同窓会 第17期理事・監事名簿

役職名	姓 名	回	分担業務(◎はチーフ)	勤務先
会長	高 木 忠 博	1	総務	脳神経外科クリニック高木
副会長	朔 啓二郎	1	総務	福岡大学医学部 心臓・血管内科学
副会長	林 英 之	1	総務	福岡大学医学部 眼科学
副会長	重 田 正 義	2	総務	医療法人 心愛山崎リゾートクリニック
理事	権 藤 公 和	1	◎支部(病診連携)	権藤内科
理事	二 見 喜太郎	1	支部(病診連携)	福岡大学筑紫病院 外科
理事	大慈弥 裕 之	3	支部(病診連携)	福岡大学医学部 形成外科学
理事	浦 田 秀 則	3	支部(病診連携)	福岡大学筑紫病院 循環器内科
理事	小 川 厚	6	支部(病診連携)	福岡大学筑紫病院 小児科
理事	野 田 慶 太	6	支部(病診連携)	福岡大学病院 臨床研究支援センター
理事	中 村 宏	11	支部(病診連携)	なかむら整形外科
理事	竹 下 盛 重	3	◎学生	福岡大学医学部 病理学
理事	松 永 彰	3	学生	福岡大学医学部 臨床検査医学
理事	岩 崎 昭 憲	5	学生	福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学
理事	二 田 哲 博	9	学生	二田哲博クリニック
理事	笠 健児朗	12	学生	笠外科・胃腸科医院
理事	御 厨 学	15	学生	なごみ泌尿器科クリニック
理事	廣 瀬 伸 一	3	◎学術(研究奨励賞)	福岡大学医学部 小児科学
理事	安 元 佐 和	7	◎国試	福岡大学医学部 医学教育推進講座
理事	田 野 茂 樹	6	◎縁結び	たの眼科医院
理事	武 末 佳 子	11	◎保険	社会医療法人 大成会 福岡記念病院 眼科
理事	小 玉 正 太	13	◎広報	福岡大学医学部 再生・移植医学
理事	前 川 隆 文	2	広報	福岡大学筑紫病院 外科
理事	岩 隈 昭 夫	8	広報	
理事	坂 田 俊 文	10	広報	福岡大学筑紫病院 耳鼻いんこう科
理事	下 地 栄 壮	20	広報	しもじ内科クリニック
理事	北 島 研	21	広報	糸島医師会病院
理事	田 中 伸之介	5	◎財務	社会保険直方病院
理事	鍋 島 茂 樹	13	財務	福岡大学病院 総合診療部
監事	柴 田 陽 三	4	監事	福岡大学筑紫病院 整形外科
監事	中 村 秀 治	5	監事	中村クリニック

福岡大学 医学部同窓会 支部長名簿

役 職	姓 名	回	勤 務 先
七隈支部長	松 永 彰	3	福岡大学医学部 臨床検査医学
筑紫病院支部長	植 木 敏 晴	8	福岡大学筑紫病院 消化器内科
福岡支部長	権 藤 公 和	1	権藤内科
北九州支部長	坂 本 博 士	2	医療法人 坂本眼科医院
飯塚支部長	千 手 昭 司	8	医療法人 千手医院
筑豊支部長	高 嶋 研 介	6	高嶋整形外科
筑紫支部長	竹 野 文 洋	5	医療法人 たけの内科クリニック
朝倉支部長	古 林 修 一	6	こばやし皮膚科
筑後支部長	浅 倉 敏 明	8	医療法人 浅倉整形外科医院
佐賀支部長	山 津 善 保	5	医療法人 三善会 山津医院
長崎支部長	星 子 浄 水	7	医療法人 星子医院
佐世保支部長	富 田 寿 三	7	とみた産婦人科クリニック
熊本支部長	魚 返 英 寛	5	魚返外科胃腸科医院
大分県支部長	鬼 木 寛 二	1	医療法人 咸宜会 日田中央病院
宮崎県支部長	野 田 寛	4	野田医院
鹿児島支部長	山 下 互	2	医療法人 拓和会 山下わたる内科
沖縄県支部長	野 原 薫	3	のはら小児科医院
広島県支部長	井 上 忠 雄	2	さつき会井上内科医院
関西支部長	渡 邊 太 郎	11	医療法人 純幸会 豊中渡邊病院

教授就任挨拶

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部皮膚科学 主任教授 今 福 信 一 (特別会員)



今福信一(いまふく しんいち)
主任教授 略歴

- S60. 4 九州大学医学部入学
 - H 3. 3 九州大学医学部卒業
 - H 3. 6 九州大学医学部附属病院
皮膚科学教室医員 (研修医)
 - H 4.10 メリーランド大学医学部
ウイルス免疫学教室留学
 - H 7.10 国家公務員共済新小倉病院
皮膚科医長
 - H 8. 4 九州大学医学部皮膚科学教室
助手
 - H12. 4 広島赤十字・原爆病院
皮膚科・診療部長
 - H15. 4 九州大学医学部皮膚科学教室
助手
 - H17. 4 北九州市立医療センター
皮膚科・主任部長
 - H19. 4 福岡大学医学部皮膚科学
教室 講師
 - H21. 4 福岡大学医学部皮膚科学
教室 准教授
 - H26. 4 福岡大学医学部皮膚科学
教室 教授
- 現在に至る

このたび皮膚科学教室の主任教授に就任しました今福信一です。

私は長崎市で生まれ育ち、九州大学医学部を卒業後、九州大学皮膚科に入局しました。米国メリーランド大学でヘルペスウイルスの研究に従事後、九州大学病院、地域の基幹病院を経て、中山樹一郎前教授が主宰されていた福岡大学皮膚科学教室に参りました。市中の基幹病院での経験が長く水虫から癌まで皮膚科全般、診療中心の仕事をして来ました。

福岡大学皮膚科は大学病院ながら決して専門的な疾患のみでは無く、一般的な疾患から重症まで幅広い診療ができるのが特徴で、私の医師としてのスタンスによく合っていると感じました。中山教授のご高配のもと自由に診療、研究に取り組みさせていただき、兼ねてから考えていたいろいろなアイデアについてじっくりと取り組むことが出来、臨床研究、疫学研究でまとまった仕事を仕上げることができました。きちんと観察し記録する記載皮膚科学は、最近の分子生物学の発展に伴いともすれば疎かにされがちです。しかし、多くの基礎的な新知見を集めてフェノタイプを再構築する際に、正確な記載皮膚科学は欠かせません。臨床像をしっかりと見極め、帰納的に診断、病態を理解し、最新の知識で臨床を科学する手法で皮膚科の臨床を発展させていきたいと考えています。

教育では今年から CBT に通った 5 年生には student doctor の称号が与えられ、ベッドサイド実習の期間が大幅に延長されました。私は准教授時代からこの実習を担当していましたが、今回の改訂はとてよよいものだと感じています。学生には外来では皮疹を視るだけでなく、末梢動脈疾患がないか脈や末梢の動脈を触れたり、甲状腺の触診や胸部の聴診など実際に患者さんに触れて興味を持ってもらい、患者全体を理解するように務めています。毎朝受け持ち患者さんの顔を見て「副主治医」としての自覚を持って望んでもらうことで学習意欲を高めて、より実践的な考え方を問われるようになった国家試験に対応したいと考えています。教室は若くて未熟ではありますが学んでいく意欲は高く、皆で工夫して楽しく遊び、学んでいます。

福岡大学医学部同窓会の多くの先生方に助けられてここまで歩んで来られたことを心より感謝するとともに、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

福岡大学烏帽子会挨拶

福岡大学医学部麻酔科学 主任教授 山 浦 健 (特別会員)



山浦 健(やまうら けん)
主任教授 略歴

- S61. 4 九州大学医学部入学
- H 4. 3 九州大学医学部卒業
- H 4. 4 九州大学医学部附属病院
麻酔科蘇生科入局
米国ウイスコンシン医科
大学 留学
福岡市立こども病院
聖マリア病院麻酔科・ICU
九州大学医学部附属病院
等勤務
- H16 麻酔科辛島クリニック
- H20 九州大学医学部附属病院
麻酔科医局長
九州大学医学部附属病院
手術部副部長・准教授
- H26 .4 福岡大学医学部麻酔科学
教室教授
現在に至る

この度は、福岡大学医学部同窓会に特別会員として入会させていただきますことを心より感謝申し上げます。

このたびご縁がありまして檀 健二郎初代教授、比嘉和夫2代目教授が築きあげられました伝統ある教室を引き継がせていただきました。

私は昭和42年福岡市で出生し、主に市内で育ちました。

昭和61年に福岡大学附属大濠高等学校を卒業し、九州大学に進学いたしました。

平成4年に卒業した後、九州大学麻酔科蘇生科に入局し「手術安全」を基本理念とした生体防御医学を高橋成輔名誉教授から厳しく指導いただきました。関連病院研修では福岡市立こども病院で小児心臓手術麻酔を、聖マリア病院のICUで集中治療を研修しました。その後、高橋教授、外 須美夫先生(現九州大学教授)から経食道心エコー法などを用いての周術期循環制御の臨床研究の指導を受け、学位を取得させて頂きました。また、米国ウイスコンシン医科大学心臓血管施設に留学し、「低酸素性脳血管拡張反応」の基礎研究をする機会を頂きました。帰国後聖マリア病院麻酔科勤務、大学での2年間の勤務を経て、平成16年から4年間は麻酔科開業医の日本の草分け的存在として古くから地域医療に取り組んでいる麻酔科辛島クリニックの辛島大士先生のもとで、城南区医師会の一員として臨床麻酔の最前線での武者修行を行ないました。この間、第一線で活躍されている多くの先生方と一緒に手術医療をおこなった貴重な経験は、これからの教育者としての人生にとっては大きな財産になるものと思っております。平成20年に九州大学に復帰後は医局長として、その後は手術部副部長としての実務経験をさせて頂きました。この間も臨床研究の他、痛みの基礎研究にも取り組みました。

今後は福岡大学医学部がさらに魅力あるものとなるように尽力して参りたいと思っております。教室運営では臨床麻酔、集中治療、ペインクリニック、緩和医療などの分野における臨床と教育および研究を推進し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することができる人材育成に取り組んで参りたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

教授就任の挨拶

福岡大学筑紫病院 耳鼻いんこう科 教授 坂田 俊文 (10 回生)



私は 1987 年に本学を 10 回生として卒業し、そのまま耳鼻咽喉科に入局しました。形成外科や脳神経外科などにも興味を持ちつつ、最終的に耳鼻咽喉科を選択したのは、同じ診療科を生業としていた父の影響もあったと思います。

しかし広島の実家には戻る気持ちがありませんでした。そのまま母校のお膝元で医師生活をスタートしました。当時は研修医が大学病院に所属することにさほど疑問を持たなかった時代でした。

入局時の耳鼻咽喉科は初代教授の曾田豊二先生が主宰されていました。自由な気風の中、臨床面では本学 1 回生の江浦陽一先生や指導医の吉峯晃一先生、研究面では白石君男先生や木村謙一先生の指導を仰ぎながら実績を紡ぐことができました。また、休みを利用しては関東や関西の手術手技講習会に足繁く通った時期もありました。その後も二代教授の加藤寿彦先生から頭頸部腫瘍の手術手技を、三代教授の中川尚志先生からは小児難聴の診療や医局のマネジメントを学びました。2008 年には筑紫病院に異動し、耳科 / 鼻科手術を中心とした診療と

聴覚に関する臨床研究を続けながら現在に至っています。

筑紫病院耳鼻いんこう科 (当時は耳鼻咽喉科) は、初代教授の調重昭先生によって 1991 年に開設され、二代教授で病院長も歴任された森園哲夫先生のとときに大きく発展しました。私はちょうど三代目にあたります。当院の主な医療圏である筑紫地区は、春日市、大野城市、太宰府市、筑紫野市、那珂川町から成り、約 40 万人もの人口を抱えています。この地区で耳鼻咽喉科の入院治療が可能な施設は、筑紫病院と徳州会病院の 2 つだけです。徳州会病院の耳鼻咽喉科部長は 9 回生の宮城司道先生なので、日頃から連携をとりながら医療活動と研究活動に励んでいます。地域医療支援病院という性格もあり、症例の数と種類は豊富です。これは修練中の医師にとっても、素晴らしい環境と言えます。患者さんの診かたと疾患の診かたを学び、臨床研究にも取り組みながら、バランスの良い医師を目指すことができます。

私の医師生活は既に全行程の半分以上を通過していますが、母校の関連施設で仕事ができることに感謝しつつ、診療、研究、後進の指導、学生教育に励む所存です。今後ともよろしくお願い致します。



福岡大学筑紫病院 右が完成した立体駐車場



患者さんの憩いの場となるヒーリングガーデン

総会報告

第33回烏帽子会総会報告

第33回烏帽子会総会幹事学年世話人代表 武田 研 (17回生 黒崎整形外科病院 副院長)

去る7月5日ソラリア西鉄ホテルにて、第33回烏帽子会総会、講演会、懇親会を開催致しました。今回の総会は幹事学年である17回生がお世話させて頂きました。

総会に引き続き行われた講演会は、同窓生初の医学部長に就任されました心臓・血管内科学教授の朔啓二郎先生に講演を依頼しました。座長は同じ心臓・血管内科学出身の福岡大学病院、卒後臨床研修センター17回生河村先生に委任し、医学部の教育を中心に興味深い内容のご講演を拝聴しました。

懇親会では特別会員の7人の先生方はじめ理事会会員、研究奨励賞受賞者、烏帽子会賞受賞者、幹事学年17回生31人の計116人のご出席を頂きました。

進行はRKBテレビ・ラジオで活躍中の麦田陽子さんと中村美由紀さんをお願いしました。お二人はコンビ名『ザ・ピンチーズ』としてCDデビューもしており、

余興時間には歌と博多にわかを披露して会を盛り上げて頂きました。表彰式、18回生への引き継ぎ式、校歌斉唱、1回生の山崎先生ご発声による万歳三唱をもって無事に閉会致しました。

二次会は17回生31人で行い、仕事の事や昔話に日が替わる時間まで楽しい時間を過ごしました。最後にサッカーのワールドカップの年毎に同窓会をしよう!…と約束して会を終了しました。世話人を任されていたにも関わらず総会の直前まで綿密な準備もせず、特に同窓会事務局の方々には多々ご迷惑をお掛けしました。幸いにも総会当日は滞りなく、多くの方々にご出席頂き、無事に閉会することが出来ました。これも理事会会員の方々、烏帽子会事務局の方々、当日のご参加者、ご支援頂きました17回生の皆様のお陰とっております。この場を借りて御礼申し上げます。

最後に烏帽子会の今後益々のご発展をお祈り申し上げます。



幹事の17回生の先生方



講演中の朔啓二郎医学部長



講演会風景



乾杯 7回生の井上隆則先生



懇親会司会『ザ・ピンチーズ』のお二人



◀ゲストの特別会員の先生方

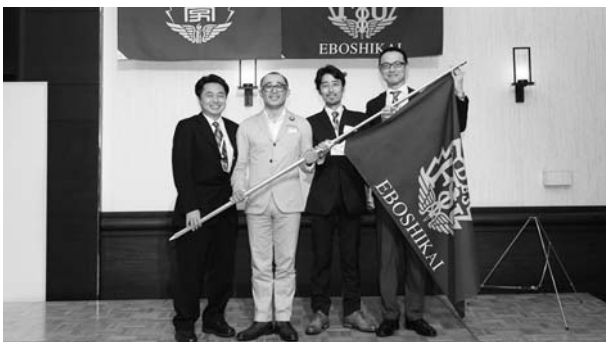
- 左より 宮本 新吾 産科婦人科学主任教授
- 濱崎 直孝 元福大教授
- 竹林 茂夫 元福大教授
- 向野 利寛 福岡大学筑紫病院長
- 金岡 毅 元福大教授
- 岩崎 宏 総合医学研究センター教授
- 荒川規矩男 福大名誉教授



懇親会風景



恒例の輪になって校歌斉唱



18 回生安成英文先生へ幹事引継ぎ



万歳三唱 山寄節初代同窓会会長

研究奨励賞

平成 26 年度同窓会研究奨励賞選考報告

選考委員長 廣 瀬 伸 一 (3 回生)

第 18 回を迎えた研究奨励賞へは 7 編の論文の応募があった。いずれの論文も関連分野で重要な知見を得たものであり、選考委員は福岡大学での研究の成果に喜ぶともに、賞の選考に苦しむ事になった。

研究奨励賞は研究計画または既に出版された論文に対して授与されるものであるが、今回の応募はいずれも出版された論文に対するものであった。分野も多岐に亘っており、単純に掲載雑誌のインパクトファクターにとらわれず、内容そのもののインパクトを考慮しようという提案がなされたことから、それぞれの委員の評価を聞くこととなった。いずれの委員も審査対象となった 7 編の論文すべてが、各分野での重要で斬新な知見の報告であることで意見が一致した。中でも米良利之先生の膵島移植に関する基礎研究と伊藤裕子先生の TGF β と黄体ホルモンに関する基礎研究の論文が高い評価を得た。また、金光高雄先

生の早期胃癌の論文の臨床的意義を評価する声も多かった。同様に、その他の論文に対しても各委員より、臨床または基礎医学上の高い意義が説明された。このため、選考過程では長く議論が続いたが、これほどの素晴らしい論文が本賞に寄せられたことは、同窓会として喜ばしいことであり、また本賞が研究者の育成に重きをおいている点を鑑み、できるだけ多くの応募者を顕彰すべきであるとの結論を得た。その結果、いずれの委員より評価が高く、学内で行われた研究である米良先生の論文が優秀賞としてまず選出された。その他の 5 編甲乙つけがたく、同様に優秀賞として加えることになった。残る一編も今後のさらなる活動を期待する奨励賞として顕彰することになった。来年も選考委員が嬉しい悲鳴を上げなくてはならないような、素晴らしい論文や研究計画の応募を切に願っている。

● 平成 26 年度 研究奨励賞受賞者名簿 ●

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大助手 永 田 濟 (正会員 / 30 回生)	Associations between lipid profiles and MACE in hemodialysis patients with percutaneous coronary intervention: from the FU-Registry (論文)
福岡大学医学部 腎臓・膠原病内科学 福大助手 井 福 正 和 (正会員 / 29 回生)	腎臓系球体疾患における Th 細胞の分化の解析 (論文)
福岡大学病院 消化器外科 福大助教 米 良 利 之 (正会員 / 25 回生)	Na ⁺ /Ca ²⁺ 輸送体拮抗薬を用いた膵島移植の工夫 (論文)
福岡大学病院 産婦人科 福大講師 伊 東 裕 子 (正会員 / 22 回生)	Transforming growth factor β 1 (TGF β 1) and progesterone regulate matrix metalloproteinases (MMP) in human endometrial stromal cells. (論文)
福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大助手 中 村 歩 (正会員 / 30 回生)	Contrast between innovator drug and generic drug-induced renal dysfunction on coronary angiography (CONTRAST study) (論文)
福岡大学筑紫病院 消化器内科 福大大学院生 金 光 高 雄 (準会員)	狭帯域光 (narrow-band imaging, NBI) を併用した拡大内視鏡による病理組織学像へのアプローチ：早期胃癌における乳頭線癌の診断と臨床的意義 (論文)



(左より) 金光高雄先生、中村歩先生、伊東裕子先生、米良利之先生、井福正和先生、永田済先生、松永彰教授

平成 26 年度授賞論文抄録

Associations between lipid profiles and MACE in hemodialysis patients with percutaneous coronary intervention: from the FU-Registry (論文)

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大助手 永 田 済 (30 回生)

<抄録>

目的: 冠動脈疾患を合併した透析患者に対する percutaneous coronary intervention (PCI) は、コレステロール管理目標値を達成していても非透析患者への PCI と比較して ISR (In-stent restenosis) や MACEs (Major Adverse Cardiovascular Events) の発症率が高く、短期的、長期的にも治療成績が不良である。よって、PCI を施行した透析患者と非透析患者のコレステロール各パラメーターと MACEs との関連性を比較検討した。

対象と方法: PCI を施行した全 2148 症例 (2568 lesions) のうち、HD (Hemodialysis) の症例を抽出し ACS (Acute coronary syndrome) を除外した全 142 症例 (164 lesions) を MACEs (-) 群 : 90 症例 (111 lesions) と MACEs (+) 群 : 52 症例 (53 lesions) に分け、コレステロールに関連する各パラメーターと PCI 後の MACEs 発症との関連性を比較検討した。

結果: MACEs (+) 群では、MACE (-) に比し、TC

($150 \pm 30 \text{mg/dL}$ vs $166 \pm 39 \text{mg/dL}$ $P > 0.05$) と HDL-C ($40.1 \pm 14.7 \text{mg/dL}$ vs $47.8 \pm 13.5 \text{mg/dL}$ $P \text{ value} < 0.05$) が有意に低値であった。その他、TG、LDL-C、L/H 比、HDL 上昇率、non-HDL 減少率、LDL 減少率や HbA1c には、両群間に明らかな有意差は認めなかった。また、単変量解析にて PCI 施行時の TC、LDL-C、Non-HDL 値と follow-up の TC、HDL-C 値がそれぞれ MACEs と負の相関を示していた。さらに、多変量解析では BMI (odds ratio, 0.81)、Prior CABG (odds ratio, 3.89)、Insulin 治療 (odds ratio, 3.17) が MACEs との強い相関を示していた。

結論: 透析患者に対する PCI 時、非透析患者のコレステロール管理目標値を適応しても PCI 後の中期的 Clinical outcomes の改善には必ずしも繋がらないことが示唆された。また、BMI、Prior CABG、Insulin 治療は、MACEs 発症の有用な予測因子となる可能性がある。

腎臓系球体疾患における Th 細胞の分化の解析 (論文)

福岡大学医学部 腎臓・膠原病内科学 福大助手 井 福 正 和 (29 回生)

腎臓疾患に関して、免疫グロブリンとその病因の関連が盛んに研究されてきた。沈着している免疫グロブリンのアイソタイプは、Th1/Th2 バランスに強く影響されている。これまでの沈着 IgG の検討で、MPGN (膜性増殖性糸球体腎炎) の病態では IgG3 が、MN (膜性腎症) では IgG4 が重要な因子である事が証明されている。我々は、今回の研究において、実際の腎組織にて Th 細胞由来サイトカインの RNA 発現を評価することで、中心的に関わっている T 細胞サブクラスを明らかにした。サイトカイン解析で、免疫グロブリンを沈着しない ANCAGN (ANCA 関連腎炎) の腎臓においても、検討が可能であった。得られた結果からは、ANCAGN では、Th1 と Th17

系のサイトカインが、MPGN では Th1 系サイトカインが、そして MN では、Th2 と Treg 系サイトカインが有意に増加しており、それぞれの病態において、異なった T 細胞サブクラスが中心的役割を担っている可能性が示された。これらのサイトカインの作用が、それぞれの疾患における特異的な組織像を創りだしていることが示唆された。実際の組織学的特徴とサイトカイン発現量の関連解析では、ANCAGN における半月体形成率は、IL-17 および IL-6 の発現量と正に相関し、MPGN における糸球体内細胞数は、IL-12、IFN の発現量と正に相関していた。これらの結果は、各疾患におけるサイトカインパターンの特徴を支持する結果であった。

Na⁺/Ca²⁺ 輸送体拮抗薬を用いた膵島移植の工夫 (論文)

福岡大学病院 消化器外科 福大助教 米 良 利 之 (25 回生)

膵島移植はインスリン依存性糖尿病患者にとって魅力的な治療である。しかし移植後早期に膵島が消失し治療効果が低いために、1 人のレシピエントに対して 2, 3 人のドナーから得られる膵島を逐次移植しなければならない。このことが臨床応用拡大への弊害になっている。以前に我々がマウスのデータで提示したように、移植後すぐに膵島から大量の HMGB-1 が放出し、それが引き金となって DC や NKT 細胞、IFN- γ 産生好中球などが活性化され、免疫学的拒絶反応が起こり、結果移植後早期に膵島が消失してしまう。このように HMGB-1 放出はこの過程において重要な役割を果たしている。しかし、そのメカニ

ズムは未だはっきりしていない。そこで我々は移植膵島から HMGB-1 が放出されるのは、Na/Ca 輸送体を経て β 細胞内に Ca イオンが流入するために起こることであると証明した。さらに低酸素によって引き起こされる β 細胞の障害は NCX に特異的な拮抗剤を用いて移植前に膵島を前処置をすることで防ぐことが出来、結果としてマウスに移植したマウス及びヒト膵島の長期生着に繋がることも分かった。レシピエントではなくドナー膵島を対象としたこの方法は、臨床膵島移植の成績改善のための新しい戦略となり得るかもしれない。

Transforming growth factor β 1 (TGF β 1) and progesterone regulate matrix metalloproteinases (MMP) in human endometrial stromal cells. (論文)

福岡大学病院 産婦人科 福大講師 伊 東 裕 子 (22 回生)

【目的】 プロゲステロン (P) は基底膜と間質基質の構成成分である細胞外マトリックス (ECM) の分解を抑制する。一方、Transforming Growth Factor β 1 (TGF β 1) は子宮内膜やトロホプラストから産生され P を抑制することから、月経発来や着床における重要な役割を担っているとされている。P と TGF β 1 とが子宮内膜において ECM 分解酵素である matrix metalloproteinases (MMPs) を調節する機能分子であるとの仮説をたて検討した。

【方法】 手術時に同意を得て各月経周期のヒト正常子宮内膜組織を採取した。組織から間質細胞を分離培養し、P、TGF β 1、もしくは両方を添加して培養上清および培養細胞を回収した。子宮内膜組織と培養細胞の mRNA を qPCR 法で、培養上清を qPCR 法、immunoblot analysis、Zymography で分析した。

【結果】 月経周期でみると、MMP2 と MMP9 は分泌期後期と月経前期に発現が増強した。培養細胞に TGF β 1 を添加すると MMP2 の発現は増強し、Zymography でも pro MMP2 および active MMP2 ともに増強が認められた。一方、P は TGF β 1 の MMP2 への働きを時間・濃度依存性に抑制した。また TGF β 1 は Progesterone Receptor (PR)-A と PR-B を減弱させた。

【結論】 子宮内膜において、P は TGF β 1 の MMPs 増強作用を抑制し、P と TGF β 1 とが相互作用しながらマトリックス統合性の調節という重要な役割を担っていることが示唆された。このことは、胚が ECM への接着と MMPs による分解によって子宮内膜へ浸潤する着床機構に関与している可能性につながり更なる検討を要すると考える。

Contrast between innovator drug-and generic drug-induced renal dysfunction on coronary angiography (CONTRAST study) (論文)

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 福大助手 中 村 歩 (30 回生)

【背景と目的】 冠動脈造影の普及に伴い、造影剤腎症への関心が高まっている。また、生物学的同等性をもつとされる後発医薬品は先発医薬品とその効果や有害事象が同等ではないとの報告がある。そこで冠動脈造影時における造影剤の先発医薬品と後発医薬品の腎機能への影響について比較した。

【方法】 冠動脈造影を予定された 44 症例を無作為に造影剤の先発医薬品群 (IN 群) と後発医薬品群 (GE 群) に 2 分類した。造影剤は低浸透圧性非イオン性のイオヘキソールとして、先発医薬品 (オムニパーク[®])、後発医薬品 (イオパーク[®]) を使用した。造影

後 24 時間と 48 時間で血液・尿検査を行い比較した。

【結果】 患者背景は、利尿薬の使用頻度が GE 群で高く、年齢、糖尿病や慢性腎不全の有病率、使用造影剤量では 2 群間に差はなかった。IN 群では造影後 24 時間時点での血清クレアチニン、シスタチン C、尿中 L 型脂肪酸結合蛋白が前値に比べ増加していたが、GE 群では有意な変化はなかった。各種検査項目について 2 群間の差はなく、患者背景からの経時的変化の程度も 2 群間に差はなかった。

【結語】 造影剤使用後の腎障害に対する影響は、後発造影剤と先発造影剤で同等であることが示唆された。

早期胃癌に対する狭帯域併用拡大内視鏡 (magnifying endoscopy with narrow-band imaging; M-NBI) による病理組織学像へのアプローチ： vessels within epithelial circle (VEC) pattern の 意義について (論文)

福岡大学筑紫病院 消化器内科 福大大学院生 金光 高雄 (準会員)

福岡大学筑紫病院消化器内科¹⁾, 同内視鏡部²⁾, 同病理部³⁾

金光 高雄¹⁾, 八尾 建史²⁾, 長濱 孝¹⁾, 藤原 昌子²⁾, 松井 敏幸¹⁾, 田邊 寛³⁾, 太田 敦子³⁾, 岩下 明德³⁾

【背景と目的】 従来、乳頭腺癌は管状腺癌と比べ生物学的悪性度が高いと報告されてきたが、通常内視鏡で診断することは不可能であった。今回、我々は早期胃癌に対する M-NBI において、円形の腺窩辺縁上皮で囲まれた窩間部上皮の間質に血管が存在する所見：vessels within epithelial circle (VEC) pattern と病理組織学的に乳頭状構造を呈する癌 (carcinoma with papillary structure；CPS) の相関について検証した。

【対象と方法】 当院で内視鏡治療が施行された連続した早期胃癌 395 病変のうち、M-NBI で VEC pattern 陽性であった 35 病変を対象とした。また、腫瘍型・肉眼型を一致させた VEC pattern 陰性病変 70 病変を対照とし、両者において以下を比較し

た。1) 乳頭状構造の頻度、2) 未分化型癌を混在する頻度、3) 粘膜下層浸潤の頻度

【結果】 組織学的乳頭状構造の頻度の頻度は、VEC pattern 陽性群 94.3%、VEC pattern 陰性群 8.6% であった。(P<0.001, chi-square test)。未分化型癌の混在する頻度は、VEC pattern 陽性群 22.9%、VEC pattern 陰性群 2.9% であった (P=0.002)。粘膜下層浸潤の頻度は、VEC pattern 陽性群 25.7%、VEC pattern 陰性群 10% であった (P=0.045)。

【結論】 M-NBI による VEC pattern の診断は病理組織学的に乳頭状構造の存在を推測する上で有用であることが示唆された。また VEC pattern を認めた場合、未分化型癌の混在や粘膜下層浸潤を考慮した臨床的対応が必要である。

平成 27 年度 福岡大学医学部同窓会

研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者
(本学会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由 (医学に関する研究計画又は研究論文)

申請方法：所定の申請書による (所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：平成 27 年 4 月 30 日 (木)

賞状・賞金：奨励賞 (優秀論文賞を含む) 5 件以内

発表及び表彰：平成 27 年 7 月 4 日 (土)、第 34 回同窓会総会席上 必ず出席すること

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること
計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出すること
②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードのこと
③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績 (原著、著書、症例報告、学会発表)、
研究の独創性・重要性を十分に書くこと

※準会員の方もご応募ください。

在外研修報告

ボストン留学で学んだ事

福岡大学病院 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 講師 吉田 康 浩 (24 回生)

私は 2013 年 7 月より半年間、アメリカ マサチューセッツ州ボストンのハーバード大学医学部 Dana-Farber Cancer Institute (DFCI) で、基礎研究のために留学しました。

拙文にて大変申し訳ないのですが、ボストンの地における研究と留学生活についてご紹介させて頂きたいと思えます。

DFCI には、当教室 OB である秀島 輝先生が勤められている研究室であり、私の大学院での研究内容が、遺伝子研究であった事もあり、私の留学先が DFCI となりました。

ボストンという町は、アメリカで最も歴史のある町ですが、同時に近代的な建築物が立ち並び、名門大学や病院が多数ある、アメリカの大都市の一つです。DFCI は、ボストンのハーバード大学医学部が位置する longwood medical area の一角にあります。

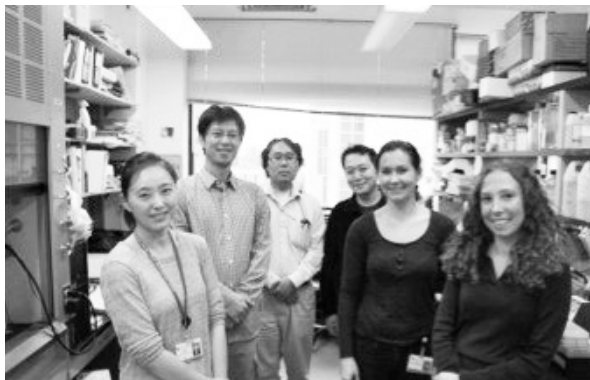
研究先である Anderson labo は、主に multiple myeloma の研究で世界最先端の研究を行い、結果を出し続けている有名な研究室です。私も multiple myeloma に関する研究を行い、それを通じて実験の技術と考え方を学ぶ事になるだろうと予想していました。しかし、秀島先生は私のために、以前、秀島先生も経験がある乳癌の研究をご用意してくださっていました。周りのスタッフが multiple myeloma の研究を行っている中、乳癌細胞を集めるところから始まった研究生活は大変ではありましたが、周囲のスタッフと秀島先生のご協力により充実した研究生活を送る事



ができました。乳癌細胞を用いて、PKCA という癌関連遺伝子を抑制して、癌細胞の増殖、リン酸化の変化、アポトーシスの変化を観察しました。PKCA は有名な癌関連遺伝子であるため、PKCA を抑える事 (siPKCA) で増殖が低下する事が観察されました。乳癌細胞で、PKCA が MAPK 経路のリン酸化に関わり、加えて、アポトーシスを抑える事が観察されました。まとめて、MAPK 経路を活性化させる事やアポトーシスを抑えることで、癌細胞の増殖や維持に関わるのではないかという結果を得る事ができました。

私は、本学細胞生物学教室で、大学院生として勉強をさせて頂きました。私の研究者としての礎は、実験器具の使い方から教えて頂いた白澤専二教授を初めとするスタッフの方々のおかげで作られたものです。今回の留学で、大学院で学んだ研究技術がアメリカでも活かされる場面が多々あり、改めて本学細胞生物学での経験が素晴らしいものであった事を実感しました。私の後輩達が、どこかに留学することもたくさんあると思います。その後輩達に伝えたい事は、留学をする前に何をしたいのか見定め、日本でできる事をしっかり学んで、留学先で懸命に頑張る事で、より充実した留學生活が送れるだろうという事です。

留学する約 2 ヶ月前にボストンではボストンマラソン爆発事件があり、特に妻や子供は留學生活に不安を感じていましたが、実際に住んでみると治安はよく、時期的にも本格的に寒くなる前までの留学期間です。



たので、とても住みやすく感じました。特に、本学OBであり、現在消化器外科に席を置く、米良先生が私より先にボストンに留学しており、留学生活においてたくさんのアドバイスや手助けをして頂いた事が、心強かった事を覚えています。留学に際しては、同

窓会からも補助金を頂き、福岡大学医学部卒業生である先輩や後輩に助けられ、支えてもらったおかげで充実した留学生活を送る事ができました。誌面で恐縮ではありますが、支えて頂いた方達に感謝いたします。ありがとうございました。

在外研修留学報告

福岡大学病院 消化器外科 助教 米 良 利 之 (25 回生)

福岡大学医学部同窓会より海外研究援助金をご支援頂き、2011年10月末より2014年3月末までアメリカに研究留学してきましたのでご報告致します。

まずは留学までの流れを。私は福岡大学医学部を2002年に卒業したあと、福岡大学病院第一外科(現消化器外科)に入局しました。その後は大学病院や関連施設で一般外科、消化器外科、乳線・内分泌外科、麻酔科、呼吸器外科、心臓血管外科などの修練を積みました。2007年に大学院に入学して福岡大学医学部 再生・移植医学講座にて、臨床髒島移植や移植免疫に関する研究を行いました。その間、Dallas (Texas州)にあるBaylor Universityへ2週間の研修に派遣して頂き、また、国際学会において口演発表する機会をも得ることが出来ました。このような経験を積むうちに海外で研究することに興味が出てきたのかもしれませんが、2011年4月より同研究室での半年間のポストドクを経て、10月末より渡りしま

した。アメリカのMassachusetts州、BostonにあるMassachusetts General Hospital (MGH)、Harvard Medical SchoolにてResearch Fellowとして1型糖尿病に対する免疫治療について研究を行いました。また、サブテーマとして移植免疫や再生医療に関する研究も行いました。

Bostonはアメリカでも有数の大都市であり、もっとも古い歴史の街です。アメリカの独立に大きく関わった地として、街中に歴史的建造物や史跡が散在し、その隣に真新しい建造物があったりして不思議な空間が広がっています。また、Bostonは世界最大の学術都市でもあります。ハーバード大学、MIT(マサチューセッツ工科大学)、ボストン大学、タフツ大学など世界的に著名な大学が多数あり、この地域で暮らす学生、研究者の数も全米随一です。さらには、アメリカ4大スポーツ全てでBostonをホームタウンにしているチームがあり、この十年の間に全てのチームが全米チャンピオンになっているというスポーツ都市でも

あるのです(2013年 Koji Uehara も大活躍でした)。春には世界最古のシティ・マラソンであるボストン・マラソンが開催され(爆破事件もありましたが・・・)、世界中から観光客が応援に集まります。芸術・文化の分野においてもボストン美術館(Museum of fine arts)やイザベラ・ステュアート・ガードナー美術館などの一流の美術館があるだけでなく、パークリー音楽大学があるためか音楽の都市としても有名です。彼のボストン交響楽団があり、クラシカルな音楽がさかんな一方、ハードコア・パンク発祥の地としての一面も併せて



優勝フラッグ



Fenway 球場にて

っていて興味深い街です。シーフードが美味しく、クラムチャウダーやロブスター、オイスターなど海の幸が豊富であるのも売りの一つです。2012年4月に成田-Boston間で直行便が就航したため、近年日本とBostonとの距離は急速に近づいてきています。

アメリカで行った研究は、現在Phase IIの臨床試験が行われている糖尿病治療に関連することであり、全てヒトを対象にした研究でした。近年I型糖尿病は、全てが解明されたわけではありませんが、自己免疫疾患の一つとして認識されています。簡単に言うと、I型糖尿病患者のインスリン産生細胞は、本来は自分の体を守るために体内に存在する免疫担当細胞から攻撃され、破壊され、インスリン産生が出来なくなる。そのためインスリン治療が必須になり、長時間経過すると全身合併症をも併発する、と言うことです。そこで、この自分自身の体を攻撃している免疫担当細胞を正常な状態に戻すことが出来ればいいのではないかと、という仮説の下、研究を行っていました。実際に、所属した研究室の過去の研究では重症I型糖尿病を発症したマウスの免疫担当細胞を正常な状態に戻すことで、インスリン産生細胞が再構築され、正常血糖化する(糖尿病が治った!!)ことが分かっています。日本ではなかなか出来ないヒトを対象にした研究であり、新しい糖尿病治療の誕生に関わっているかもしれないという興奮を感じつつ研究を進めました。

渡米中には、同窓会から4年生(2013年3月当

時)の学生を2人、3年生(2013年8月当時)の学生を3人、短期間ではありますが海外研修体験として指導する機会を頂きました。大した指導は出来ませんでした。海外の一流の研究者や日本から来ている多くの一流の研究者と交流出来たのは良い経験になったのではないかと考えています。

研究留学では様々な経験が出来、人間としても一回り成長出来たのではないかと考えています(留学中、身体は一回り小さくなりました。帰国後順調にリバウンド中ですが)。その中でも一番の収穫は、様々な人と関わりを持てたことだと思います。一生の中でも得難い経験が出来、濃密な時間を過ごすことが出来ました。今後は改めて、福岡大学病院の発展のために微力ながら尽力したいと考えております。

最後に、今回アメリカ留学にあたり福岡大学医学部同窓会より海外研究援助金をご支援頂きました。改めて御礼申し上げます。



福岡大学医学部同窓会

在外研修援助金 募集要項

①長期研修

対 象：正会員、準会員(本会会費完納を条件とする)で医学の研究または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出のこと

提 出 先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
T E L 092-865-6353(直通) 代表 092-801-1011 内線 3032
F A X 092-865-9484

援 助 金：1件20万円を限度とし、年間5件以内

発 表：本人に文書にて連絡

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表すること

②研修中に生じた問題について同窓会は関与しない

③申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードのこと

平成 25 年度評議員会議事録

- ◆日時 平成 26 年 4 月 26 日 16 時
- ◆場所 福岡国際ホール
- ◆出席 評議員：実出席 49、委任出席 47、欠席 16
支部長（再掲）：出席 18、欠席 2

◇経過報告

〈高木会長〉

皆さんこんにちは。今年是非常に喜ばしい経過報告をさせていただきます今年になりました。第1は、烏帽子会創設から35年間の夢でありました卒業生から学部長を出すことがついに実現したことです。卒業生から学部長が誕生したことは同窓会に大きな意味をもたらすとひしひしと感じております。第2は2人の卒業生の教授が生まれたことです。筑紫病院耳鼻いんこう科の教授に10回生の坂田俊文先生が、医学教育推進講座教授に7回生の安元佐和先生がなりました。

毎年報告しています国家試験のことで、今年もワースト5に入っており福岡大学は苦労が続いています。子弟の入試状況ですが、今年はA方式推薦が1人、地域枠推薦が2人、附属推薦が1人、センター利用が1人、一般入試が13人で合計18人合格でした。相変わらず超難関の状態が続いているようです。

朔医学部長になってから、我々同窓会の活動と学部内の活動が上手クリンクージュするようになりました。本日は朔医学部長がお越しですのでお話させていただきます。

〈朔副会長〉

昨年12月1日付けで医学部長を拝命いたしました。卒業生で、臨床から医学部長がでることは珍しいことですが、この機会を利用して学生教育、同窓会との連携の強化をやっっていこうと思っています。「医学部を変える」をテーマに2年間やっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

〈重田副会長〉

入試の状況に関して林副会長より説明をお願いいたします。

〈林副会長〉

現在は、推薦入試、一般入試、センター利用の3種類あります。A方式推薦入試は倍率が10倍、地域枠推薦が6倍とかなり高度なものです。そのなかで子女の合格は1人ずつです。一般入試は倍率40倍。子女の合格は13人です。センター利用においては倍率80倍。子女の合格は係累者1人という結果となっています。

〈重田副会長〉

センター利用は今後どうなりますか？

〈朔副会長〉

10人の定員に800人が応募する状況で倍率80倍です。全国から集まるのでこの枠を広げるのも一つの方策ですが、最終的に福岡大学に残らない可能性もあります。とりあえず10人と考えています。

亡くなった先生方を悼み黙祷。

議題 1. 平成 25 年度収入支出決算見込

〈事務局説明〉

[附]会費納入状況

〈田中専務理事説明〉

23年度までの累積、24年度までの累積、25年度までの累積、25年度単独の資料を示しております。25年度単独では85%という高い納入率をいただいております。支部徴収は1月末が締め切りになっておりますのでこれが確定した数字となっております。日頃よりお忙しい中、支部徴収にご協力いただいております役員の先生方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

本部徴収に関しましては5月末が締めでございますので最終の数字は出ておりません。53.7%と若干伸び悩んでおりますが、昨年が非常に良かったのでその反動かもしれない。今年度から福岡赤十字病院支部を本部徴収に移行させていただいております。

本部、支部とも高い徴収率をいただいております。皆さんに沢山のご浄財をいただいております。改めて御礼申し上げます。拍手をもって承認

◇議題 2. 平成 25 年度事業報告及び

平成 26 年度事業計画（案）について

①会報の発行〈中村理事説明〉

正会員の増加により発行部数が増え、輸送料も値上がりしておりますので増額となっております。

②総会の開催〈中村理事説明〉

総会に招待する学生会員の会費負担に加え、今年より、総会担当学年に準備金として20万円渡すようになっており増額となっております。

③支部活動援助〈中村理事説明〉

例年どおり。

④研究奨励賞〈林副会長説明〉

正会員、準会員の先生方を対象とし、研究の成果を称

揚し、あるいは研究計画に対して援助をしようという主旨で始まったもので、今年は5名の方に授与いたしました。

選考会議は、学内の同窓教授が選考委員として会議を開いております。選考委員長は2年任期とすることになり26年度から2年間は小児科の廣瀬教授が選考委員長をされます。

かつて研究奨励賞を受賞され、当時ボストンに留学されていた小玉先生が、福大に帰って来られ准教授(H26.10.1より教授)になられ、極めて優秀で素晴らし人間性を持ち、様々な業績をあげられ、後輩にも実績をつけさせていることを思いますと、研究奨励賞はかなり重要な意味を持つと考えております。ただ、学内からの応募がどうしても多く、学外で頑張っておられる先生方にも応募していただきたいと考えております。

⑤在外研修援助金〈林副会長説明〉

福岡大学の同窓の先生(準会員も同様)で海外へ長期(3カ月以上)に留学される時、所属機関責任者の推薦状、受け入れ先の同意と証明書を添えて提出いただきます。理事会にて決定した場合20万円を給付しており今年は3名の方々に交付しております。過去には7人程申請されたこともありましたが、臨床研修医制度が変わり大学院や、研究に向かう方が少なくなりました。それと共に留学して研究をしたいという人も減っております。

学生への研修援助は、夏期休暇や春期休暇を利用して海外へ2週間ほど研修に行っていたり。その時には同窓の先輩が学生を引き受け、研修をする場を与えてくれる形で実施しております。学生の感想は「大変刺激を受けた」「医者になった後も行って勉強したい」と意欲的な意見が聞かれており、意義ある事業として続けていくべきものだと考えております。在外研修援助金を受けて留学された先生、学生は帰国後会報に報告掲載をお願いしております。

⑥学生対策〈朔副会長説明〉

学生対策は新入生歓迎会、M4激励会、国試激励会、M7激励会を行っています。今週、6年生、5年生を集めて学内で国家試験に合格した先輩の体験談を聞く「平成26年度ステップアッププログラム」という会を実施しました。その後6年生を連れて食事に行きました。担任の先生、同窓会の先生も一緒に総勢115名で大変盛り上がりました。学部の行事と同窓会の行事を一体化すること目論んでいます。

ΦBKという4年生の成績上位者を集めて教授と一緒に福岡で一番良いレストランで食事をしています。この時に賞状を渡しますが、非常にモチベーションがかかります。今までは成績下位の人たちをケアすることはばかり考えていましたが、成績上位の人たちを讃えようと、昨年の評議員会で承認いただいたもので、昨年同様今年もやりました。上位者

を褒めて励まして認めて賞状を渡してというのは福岡大学ならではのことでと思っています。今年は賞状に加えて白衣に付けるピンバッジを贈りました。4年生のCBT試験成績トップ10の人たちがそのバッジを白衣に付けて今5年生で病棟を回っていますが、彼らを見ると自信を持って付けています。やはり成績が良いですからプレゼンテーションなどもうまいですね。今年は学部と一体化した取組が増えるのではないかとことから増額となっております。

⑦白衣贈与〈竹下理事説明〉

今年度より、全国医学部長病院長会議が、共有試験(CBT・OSCE)に合格し、4年次までの必要な単位全てを修得した医学生に対し「Student Doctor 認定証」を発行するという質保証システムを開始することとなりました。福大では初めての「白衣授与・Student Doctor 認定式」が平成26年3月29日に行われました。4年生の主任が名前を読み上げて、医学部長がネームプレートを渡すという儀式が行われ、その後同窓会からの白衣を渡すという形式でした。非常に厳かで皆さん喜んでいました。意識が高くなってやる気が出ているように感じられます。この授与式が学生の意識向上に繋がり、国家試験、良い医者へと進んでいくと思っています。

〈朔副会長〉

当日は同窓会より6名の先生方が来ていただいて、20数名の先生方が学内から出席していただきました。福大のように学部と同窓会が一体化して授与式をしているところはないと思います。学生さんの保護者の方も沢山出席されました。こういうことが良い方向に働いてくれればと思っています。

⑧国試対策費〈朔副会長説明〉

国家試験は新卒が昨年は86%でしたが、今年はそれが下がっています。以前は3年～4年毎に卒業判定を厳しくするので合格率がポンと上がっていましたが、最近はその山が出なくなって下位に低迷しています。この状態に危機感を感じる先生方が多くおられます。ですから1番の命題としてやっていきたいと思っています。

福大は全員卒業させるので落ちる人がいるということだと思います。教授会でも私は2回発言していますが、今後、医学教育推進講座ができ、小児科の安元准教授が主任教授として就任されます。そこ国試対策委員、学年主任とどこまで卒業させるか決めた方が良いのではないかと発言しています。最終的に教授会で決めるのですが、卒業させる評価がだんだん低くなっている傾向がみられます。そこら辺を少し厳しくしたいとは思っています。

国家試験の結果が良くないと卒業生の評価が低くなりますのでここだけは厳しくやっていきたいと思っています。ますますのご支援よろしく願いいたします。

〈重田副会長〉

朔教授が動き始めていよいよ大きな仕事になると思います。励ましも含めて何かご意見をお願いいたします。山崎先生一言お願いいたします。

〈山崎評議員〉

我々の同級生の朔先生が医学部長になられ、道は非常に厳しい部分もあると思います。30数年間の我々の気持ちを全て受け止めていただき、必ず良い方向へ持って行ってもらえるものと期待しております。朔先生には頑張っていたいただき、同窓生は一丸となって協力するというこれまでの姿勢を更に徹底していくことが大切だと思います。そのためには、皆さんの率直な意見を評議員会やいろいろな場に出し集約することが、同窓会としては一番大事だと考えます。

〈山下鹿児島支部長〉

全国的な国試の状況をみているとかなり予備校主導型になってきているように思います。また国試のレベルも上がってきています。予備校がグレードを上げておりそれに伴いこの大学もそのレベルまで上がっていかないと点数が取れないという話を聞きます。福大は予備校の活用をやっているのでしょうか？

〈朔副会長説明〉

やっています。ビデオ講義をとらせたり、予備校講師を招いた講演会、予備校がやっている模擬試験を取り入れて実施しています。国家試験100%の大学の中には2年生から予備校のビデオを見せており、大学そのものが予備校化している所もあります。早い時期から実施しその中で一生懸命頑張っている学生さんがいることは事実です。しかし、福岡という場所はとても楽しいらしいです。ミュージカルもあるし、野球やサッカーの試合もあります。勉強しなくなる学生をどう指導していくかにかかっていると思うています。

〈山下鹿児島支部長〉

国立大学も同じようなことをやっていますよね。これから先の入試をどうやっていくか、今は知識の詰め込みすぎではないか、もっと考える形での医師を作っていく必要があると文科省が考えているようで、将来的には変わっていくのかなとは思いますが、国試に合格しないことに仕方がないのでいろいろな方法を考えないといけないと思います。

〈朔副会長説明〉

今年の国家試験をみてみると病棟実習が出てきます。例えば点滴をする時に針が何ゲージですか?という問題が必修問題として出てきます。病棟実習の時は点滴をしたり様々な医療行為をしますが、この針が何ゲージだということまで教えていません。普通にやっていることが試験に出てきます。この機械は何のために使うのかという問題が必修問題に出ます。適当に実習している学生は落ちます

ね。また国家試験のガイドラインが出され、今年是多毛症が出ますよと書いてあれば、多毛症に関する問題が2~3問出ます。データを自分で把握して国家試験を受けないと落ちます。問題意識を持って実習に臨むよう指導しています。竹下先生が病理のデータをみせたのですがそれが当たりました。病理の写真が沢山出題され、マクロの病理の試験も出ています。画像や病理の所見が試験に出ており新しい問題が増えています。福大の不合格者は結構必修問題で引っかかっています。必修対策をもっと厳格にやるべきだと思っています。

国家試験は3日間ありますが、答え合わせはするなと僕たちは言ってきました。ところが今年度「ステップアッププログラム」で国試合格者の体験談を話してくれた卒業生が、毎日答え合わせをしないとイケないと言います。同じような問題が必ず次の日に出るので答え合わせして、もし一般問題でしくじったら翌日は、一般問題に時間をかけるようにすると対策になると言いました。彼らのノウハウは素晴らしいです。クラブ活動をしているからダメだということではない。ちゃんとやっている人間はそんな事は解っているときっぱり言います。「解らないところは恥ずかしがらずに聞く。早く自分の勉強法を決める。あれこれと手を出さず一つを最後までやり通す。他大学からの情報に惑わされるな。問題意識のないまま勉強しても頭に入らない。自分はさぼっているのに必死で頑張っている人をガリ勉と言うのは負け惜みでしかない。言い訳をしない。本当の意味での孤独にならないで」。など、非常に良い話を6年生5年生にしてくれました。そういった話をもっと聞きながら、予備校の教材を利用しながらこ入れしたいと思っています。

⑨支部祝儀贈与（中村理事説明）

支部発足、支部会参加費で23万円の予算を組んでおりますが、実績として福岡支部、北九州支部、宮崎支部へお渡ししております。予算の変更はありません。

⑩学生行事援助（中村理事説明）

烏帽子会賞は西医体、九山において優秀な成績を納めた団体、個人に渡しております。学生行事援助は交換留学の啓明大学学生への白衣支援をしております。学生行事参加は謝恩会、学部新入生歓迎会へ招待される際の祝儀です。予算の変更はありません。

⑪学会寄付（林副会長説明）

学会寄付は日本がつくメジャーな学会には30万円、それに準ずる全国レベルには20万円、その他は10万円の補助をしております。同窓の先生が全日本規模の学会を開催する場合は理事会で検討する場合があります。また、同窓の教授以外の教授から援助申請の場合も対応しています。

今年は嬉しいことに申請が6件ありました。それだけ学

会を主催し会長をされる先生が増えたということです。学会報告を会報に必ず掲載していただくようになりました。よろしく願いいたします。

⑫慶弔贈与〈中村理事説明〉

1 回生朔医学部長就任祝い、1 回生野田萬里先生、5 回生友清哲先生、5 回生前原俊徳先生へ生花または弔慰金を出しております。

⑬グッズ作製 ⑭会員名簿 ⑮パニックマニュアルの発行

25 年度は作製せず

⑯奨学金緊急貸与

25 年度は支給対象者なし

⑰縁結び〈田野理事〉

同窓生の皆さんの幸せを願いつつ、平成 24 年 12 月よりホームページ上にアップいたしました。現在まで女性 7 名、男性 0 名の登録を推移しております。内容も少し変えまして男性に関しては、同窓会員の推薦があれば登録可能と門戸を広げましたが応募がございません。

私が所属しておりますサッカー部の研修医にも聞いておりますが、応募がしにくい状況にあるようです。安全を守るためではありましたが、女性の情報が少しでも解らないと登録しにくいということで、少し変えていかないといけないのかなと思っております。何分にも女性の方を一年以上そのままの状態です。女性にとっては一年一年が勝負の年でございますので早く男性の紹介をしたいのですが、誰でも良いという訳にはいきませんので難しいところです。今後、パーティーも含め、医局を巻き込んで、卒後 10 年目の先生方とのパーティーがいいのかなと考えております。是非ともお近くのお知り合いの方をご紹介いただければと思っております。

〈重田副会長〉

何か良い知恵があればと思っております。何かご意見をいただきたいのですが。坂本先生一言ないですか？

〈坂本北九州支部長〉

立ち上げの時から、ひょっとしたら難しいかなと思いがちながらも、継続することが大切だと思います。同級生同士なら「登録して!」と気軽に話もできますが、先輩後輩になるとどういってお子さんがおられるか解らないので躊躇します。各支部の集まりの中でお互いの子弟のことが気軽に話せる仲でないと登録までは難しいのかなと感じます。北九州は晩婚で女性の初婚年齢が 31 才。男性が 35 才です。20 代はまだ早いという印象があります。子どもの考えも同じで 20 代での結婚は、良い縁があればと言いながら、なかなかそういう気持ちにならないようです。焦らずにじっくりと丁寧に進めて行くしかないかなと思います。安心して登録ができる仕組みは安全ですのでちゃんと残すべきだと思います。

〈朔副会長〉

はじめ話を聞いた時上手いくはずがないなと思いました。しかし、東京の方の医学部では学生の間に婚約や結婚させることが流行っていると聞きました。そっちの方がちゃんと勉強するようになっていいんだということをごちゃごちゃと耳にしました。しかし、「縁結び」のネーミングも考えた方がいいでしょうね。

先週、内の医局員が婚約者を連れて来ました。可愛らしいお嬢さんでどこで知り合ったか尋ねると合コンだと言うことでした。合コンとかに対して積極的にサポートする位の次の手がないとなかなか伸びないかなと思ったりしています。

〈重田副会長〉

なかなか難しい事業だと思います。同級生同士で話し合うとすぐ出てくるものですから、同窓会的繋がりであればということころなのでしょうが、なかなか大変だと思います。合コンするとなるとかなりの予算を使うことになると思いますのでもう少し慎重に進めないといけないかなと思います。何か良いやり方があればもう一度承認を得てやってみるということでよろしいでしょうか？

〈田野理事〉

合コンに関わる具体的な費用は事業費を使うことはいたしません。参加者からの会費でやっていきたいと思えます。皆さんの幸せのために頑張りたいと思えます。

〈重田副会長〉

来年度もチャンスがあれば広げていきたいと思えます。温かく見守って下さい。よろしく願いいたします。

⑱保険コンサルティング紹介〈武末理事〉

保険のコンサルティングに関しては九州一円、山口の正会員にご案内を出しました。さらに学生への対応として、卒業生、6 年生、入学生に案内を出しました。その中で延べ 56 件程保険の契約をいただき烏帽子会の収入面でも役に立ちました。

保険コンサルティングの案内をするにあたって付随的に弁護士登録のご案内をしました。実際に事例があれば訪問させていただくこととなりますので、初めは福岡市、北九州市に限定しました。現在は福岡、佐賀全域を対象として訪問しています。この地域で支部総会があり、お許しをいただいた所には担当者ら（弁護士も含む）が赴いて懇親会等で説明したりお話をさせていただきました。佐賀、大牟田、北九州に参加し、今年は筑後へ伺う予定になっています。

弁護士登録の方が反響がありまして、こちらの方に東奔西走されている状況です。580 件程先生の所に伺い 65 件登録していただきました。登録された先生方には月に一度いろいろな情報を載せたコラムのような葉書を送っています。具体的に質問や相談があった件数が 80 件、弁護士さ

んが相談に対応されたのが30件で、この相談までは無料です。更に弁護士さんが動かれた事案が15件程あったということです。内容は労務管理上の問題、個人的や医療上のトラブルについて対応していただいているそうです。

医師会にも顧問の弁護士さんがおられ相談は出来ますが、そちらとはどう違うのかと質問を受けることがあります。医師会では具体的な事案の状況にならないと弁護士さんと直接話す事が出来ないのですが、ちょっと相談したい、事案にしていいのか解らない段階で相談ができることが違う点だと思います。顧問弁護士をお持ちの先生方も多いと思いますが、個人的な問題などは知りすぎて逆に相談しづらい、ちょっと離れたところでしかも信用出来るところが良いというお声をいただいております。

〈重田副会長〉

思ったより反響が良いです。直接会われた先生方如何でしょうか？

〈宿里評議員〉

お会いしたら人当たりが良かったです。今度支部総会で話をさせていただくことになったようです。

〈重田副会長〉

北九州の支部総会でも話をしてもらいました。早速いろいろな質問が出ているようでした。これは皆さんのお役に立てるのかなと思っております。担当者の人間性も問題ないですね。会長の紹介で始めた事業です、会長一言お願いします。

〈高木会長〉

医療をやっていく上で、サポートできるシステムがあるので役に立ちたいと話にきました。私も直接会って弁護士さんとも話しました。当たりの良い誠実な方で、話し方も理路整然としており客観的に物事を見ていくことが出来る人で、これは問題ないと判断し、事業として始めました。意外にもニーズが沢山あるとの報告を聞き、多くの会員のサポートになっていると安心しています。

〈宿里評議員〉

弁護士さんのことですが、来年はここに来ていただいております。お話をさせていただくのが良いのではないかと思います。如何でしょうか？

〈重田副会長〉

そうですね。それも一つの方法だと思いますので検討してみます。

以上事業計画案について説明いたしました。何かご質問はございませんでしょうか？

ないようでしたらご承認お願いいたします

拍手をもって承認

◇議題3. 平成26年度収入支出予算(案)

事務局説明

承認

◇議題4. 第17期役員改選について 会長選出

事務局説明

〈重田副会長〉

立候補されたのは現会長の高木先生お一人で他の方はおられません。現会長高木忠博先生を第17期の同窓会会長に推薦するということにご意義なければご承認をいただけますでしょうか？

拍手をもって承認される

〈高木会長〉

ご推薦いただきまして本当にありがとうございます。この17期の2年間しっかり頑張ります。とにかく100人で100%を実現するために同窓会と学部ががっちり組み合った形を2年間で作りたいと思っております。よろしく願いいたします。

◇議題5. 決算評議員会省略の件

承認

◇議題6. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会
第33回総会案内

岩朝光利先生より説明あり

原案通り承認

〈重田副会長〉

1つお願いと今後の予定ですが、九州医師会医学会総会が毎年11月に行われております。その会を利用して懇親会をしてはどうだろうかと3年前佐賀支部より提案があり、佐賀、宮崎、沖縄の順番で開催されました。今年は大分で行われますので鬼木支部長に準備をお願いしております。毎年参加されております山津先生、何か良い方法などありましたら一言お願いします。

〈山津佐賀支部長〉

福大は始めて何年かですが、他大学は非常に多くの先生方が集まられています。懐かしい先生にお会いする機会にもなり楽しい時間となるようです。各支部長が支部会員に強く言っていただければと思います。

〈重田副会長〉

医学会総会には沢山の先生方が行かれますので折角の機会ですから懇親会が出来ればと思います。鬼木先生よろしく願いいたします。

これをもちまして平成25年度評議員会を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

各種報告

学会報告

福岡大学筑紫病院 小児科 教授 小川 厚 (6 回生)

烏帽子会の会員の皆様、福岡大学筑紫病院小児科診療部長の小川厚です。この度は学会開催に当たり多大なご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。開催の報告をさせていただきます。

第 77 回日本小児神経学会九州地方会学術集会を平成 26 年 8 月 3 日に福岡大学筑紫病院のガーデンホールにて主催者小川厚、事務局長井上貴仁で開催させていただきました。本学会は「九州小児神経懇話会」の名前で、九州における小児神経の勉強会をとの有志の先生方のご努力により 1975 年 2 月に初めて開催されました。その後、各県の小児神経科の先生方が交代で主催者となり、おおよそ 2 回の開催を続けて参りました。その後日本小児神経学会が全国を 9 つのブロックに分けて地方会を組織する際、その受け皿として 1996 年 8 月に正式に現在の名称の「日本小児神経学会九州地方会」となりました。本学会は日本小児科学会専門医制度研修集会 (4 単位) ならびに日本小児神経学会専門医研修単位 (出席 5 単位、発表・筆頭 3 単位、連名 1 単位) を付与されております。

本学会は一題一題の症例を大切に、討論時間は 1 演題 30 分です。15 分の症例提示の後、15 分ほ

ど時間をかけしっかりとした討議ができることを最大の特徴としています。若手、中堅の参加者にとって小児神経の臨床を学ぶ良いトレーニング (指名で鑑別診断、必要な追加検査をあげるなど) の機会になっていることが特徴です。

今まで福岡大学が担当する場合は福岡大学医学部での開催でしたが、今回初めて福岡大学筑紫病院が学会を主催させていただきました。学会は 9 時 30 分開始、16 時 35 分終了の 1 日開催、演題数は 12 題と盛会でした。ちなみに演題は 1 施設 1 演題に制限されております。筑紫地区は交通の要衝であり JR、西鉄大牟田線の駅から徒歩で来院可能、高速道路のインターチェンジからも近く、立体駐車場完成後間もない開催でもあり、127 名を越える参加者を集め好評でした。

最後に本学会を開催するに当たりご尽力いただきました福岡大学筑紫病院小児科のスタッフ一同、福岡大学医学部の小児神経グループの皆様に感謝してご報告といたしたいと存じます。今後とも福岡大学筑紫病院小児科ならびに福岡大学医学部小児神経グループにご支援のほど、宜しく願い申し上げます。

第21回日本心血管インターベンション治療学会 九州地方会を開催して

福岡大学医学部心臓・血管内科学 講師 西川 宏 明 (18回生)



この度、第21回日本心血管インターベンション治療学会九州地方会を福岡国際会議場にて平成26年8月22日(金)、23日(土)に開催致しました。今回の開催にあたり、福岡大学医学部同窓会より多大なるご支援を受け、盛会のうちに終えることができましたので皆様方に感謝の意を込めまして報告させていただきます。

心臓血管カテーテル治療(PCI)が始まって30年以上の月日が流れました。この間、多くの医療スタッフの熱い想いと各企業の猛烈な技術開発への努力によりPCI手技内容は著しく向上し、複雑病変へのアプローチも可能になってきました。その中で本学会は、より一層安全で最適なPCIを追求してきました。今回は「今、最も求められる心臓血管治療を探究する。—カテーテル治療の更なる革命を次世代と共に考える—」をテーマに掲げました。様々な心血管系病態に対して円熟した先生方から数多くの講演を頂き、また九州各県、沖縄、北海道などの施設から約100演題の発表がありま

した。日々進歩する最先端の治療技術を共有し、またその磨かれた技の数々を次世代の先生方やメディカルスタッフと共に学ぶ場になったと大変満足しています。約550名の参加があり、PCI関連以外にも画像診断や末梢血管治療、薬物治療の最前線、経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)、肺動脈拡張術、各疾患に対するビデオライブセッション、そして歯科疾患との連携などプログラム内容も充実し、予想以上に盛況であったことを大変嬉しく思っています。

本地方会開催までの準備におきましては、多くの方々に励まされ、助けて頂きました。貴重なご意見を頂いた方々、御多忙にも関わらず連日にわたり会を盛り上げて下さいました福岡大学医学部心臓・血管内科学 朔啓二郎教授と同教室のスタッフの皆さんに心より感謝致します。

最後になりますが、私自身も本学会にて学んだ経験を今後の研究や診療に役立てる精一杯の努力を惜しまない気持ちであります。これからも福岡大学医学部同窓会の益々の発展と同窓会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



学生ボランティアを通して得たもの

石田 匡 宏 (M6)

先日、北九州国際会議場で開催された第38回日本自殺予防学会総会において、私が4年生の時に参加していたボランティアについて演題発表（演題名：思春期自殺未遂患者に対する学生ボランティア活動の試み）の機会を得たことを皆様にご報告するとともに、ボランティアの内容を簡単ではありますがご紹介したいと思います。

まず、ボランティアに参加するに至った経緯ですが、4年生の精神科講義の中で自殺予防チームの衛藤暢明先生が、入院中の児童思春期の患者さんに対する学習支援ボランティアに参加する学生を募っていたことがきっかけです。その後、自殺予防に関するレクチャーやロールプレイを経て、最終的に私を含め4人の学生がボランティアに参加しました。

初めは、患者さんに接した経験もほとんどなかった上に、自殺企図されたという背景もあり、どのように声をかけたらいいのかわからずとても緊張していました。それは自分が再び患者さんの状態を悪くさせたり、自殺企図のきっかけを作ってしまうのではないかとという恐れがあったからです。

しかし2ヶ月間の学習支援やレクチャーを通して、むしろ適切に声をかけ、死にたい感情について尋ね、話を傾聴し、そして物理的な危険を遠ざけることの重要性(TALKの原則)を学ぶことで、恐れや緊張は次第にやわらぎました。結果的に学習支援というよりも雑談をするようなボランティアとなりましたが、徐々に患者さんも私たちに心を開いてくれるようになりました。

治療的役割に関してはほとんど担っていないこともあって学会発表では患者さんの変化という点ではなく、本ボランティアに参加した学生の意識の変化と、将来どの科に進んでも自殺予防に関する知識を持った医師を育てることが出来るという教育的効果についてまとめてポスター発表を行いました。会場では医師だけでなく、行政や精神保健福祉士など様々な職種の方からご質問いただき、違う視点からの考えに触れることが出来てとても勉強になりました。医学生がボランティアとして直接自殺企図者に関わるというのは全国でも初めての試みということもあって、他大学の医学部、看護学部の先生方も興味を持たれており、本ボランテ

ィアに参加出来たことをとても誇らしく思いました。

現在、本ボランティアは自殺予防チームの先生方と医学科の後輩達によって続けられており、私たちが実践することの出来なかった学習支援という点においても成功しているそうです。今後も本ボランティアは継続し、さらに改善されていくことと考えられます。

長くなりましたが、以上で演題発表の報告とボランティアの紹介とさせていただきます。福岡大学において今の2年生より研究室配属などの新たな取り組みがされていると聞いています。本大学には学会発表だけでなく様々な学習や成長の機会があるので、大学で出会った先生方や部活での縦のつながり、同級生や学外で出来た横のつながりを大事にし、学生時代に様々な事に積極的に取り組んで欲しいと思います。そして来年以降、卒業生として烏帽子会報で福大生の自由な活躍を拝見できることを楽しみにしております。

それでは最後になりましたが、貴重なご機会をくださり、またお忙しい中ご指導いただきました西村良二教授を始め、福岡大学精神医学教室の先生方には改めてお礼を申し上げます。



学生対策報告

Fukuoka-Keimyung University BSL Exchange Program 2014

臨床検査医学講座 教授 松 永 彰 (3回生)

2014年5月11日～5月24日の日程で、福岡大学医学部医学科学生が、韓国の大邱(テグ)広域市にある啓明大学(ケミョン大学、Keimyung University)でのBSL交換プログラムに参加した。大邱広域市は、人口約250万人の韓国第3の都市であり、街の賑わいや都市としての整備も福岡市の1.5倍くらいの規模である。

啓明大学とのBSL交換プログラムは、今回で9年目、鳥インフルエンザ流行で1回中止となったため実質8回目である。毎回のことではあるが、啓明大学では今年も大々歓迎を受けた。今回BSL交換プログラムに参加した学生はM6の中里 玲、西村瑠美、佐倉悠介、吉本春香、藤吉美貴子、松永 慶、笹岡大記の7名である。学生達は啓明大学東山医療院でBed Side Learning(BSL)を受けた。1週毎に2科を研修するプログラムであり、学生達はバラバラになって単独で、Endocrinology, Rheumatology, Cardiology, Gastroenterology and Hepatology,

Pediatrics, Gastroenterological Surgery, Plastic and Reconstructive Surgery, ENT, Urology, Anesthesiologyで研修を受けた。韓国の医学教育は英語が基本であり、韓国の医学生はみな英語が堪能である。今回の7名の学生はしっかり韓国でのBSLに馴染んだようで、すっかり溶け込んだ様子であった。教員は行きに公衆衛生の守山正樹先生、放射線科の吉満研吾先生、帰りは腎臓・膠原病内科の三宅勝久先生と私(松永 彰)が参加した。最終日には、学生・教員200名ほどの聴衆を前に研修発表会があり、7名の学生が英語でプレゼンテーションを行った。今回、福岡大学医学生の英語プレゼンテーションを初めて聞いたが、結構上出来で感心した。

企画、遂行にはかなり骨が折れるが、このBSL交換プログラムは、ずっと続けていくべきだと感じている。

最後に、今回のBSL交換プログラムでは、同窓会より学生へ渡航費の補助を頂いた。同窓のみなさまに感謝致します。



啓明大学での交換留学を終えて

中 里 玲 (M6)

M6の臨床実習の一環で、今年5月に韓国の啓明大学にて2週間の交換留学(BSLプログラム)に参加させて頂きました。参加を決意したものの、学業面の心配や先入観などから、果たして有意義な実習とすることができるのであろうかと、海外渡航が好きである私としては珍しく少し不安を抱えたまま出発の日を迎えました。しかし実際には、韓国の方々との温かい交流を通じて、新たな医学知識を習得しつつ自らの考えも深めることができた2週間となりました。

私は1週目に内分泌内科、2週目に小児科を選択しました。1週目の内分泌内科は病院の中でも指導が厳しいとされる科であり、啓明大学5年生の学生さんと共に、初日から症状から鑑別診断・治療を提示するグループワークを行い、翌日から毎朝の教授回診・外来実習、また毎日決められたハリソン内科学のページを読み、その部分の口頭試問を受けることとなりました。韓国には母国語の医学書があまりないそうで、学生さんたちはほぼ全て英語で医学を学んでいるため語彙力にはとても長けており、こちらが分からないときは優しく説明してくれたり、口頭試問の際には共に協力し合い短い期間でも学業仲間として良い関係を築くことができました。最終日には担当患者さんの症例報告を初めて全て英語で行うという経験もさせて頂き、確実に成長を実感することができました。2週目の小児科は雰囲気も明るく、とても親切で明る

い教授のもと小児消化器疾患・感染症を学びました。特に、彼が専門としている先天性微絨毛萎縮症という、これまであまり馴染みのなかった疾患について詳しく知ることができたのは本当に貴重な経験であったと感じています。ここでも同じく5年生とともに回診や授業を受けましたが、彼らは先生方の質問にも積極的に答えており、本当に感心しました。また上下関係が厳しい韓国においては、基本的に先生が質問をしていいというまで黙って先生の話の聞いているという風潮がありますが、小児科の教授は本当に話しやすく温かい人柄の持ち主であり、そのため生徒側も思いついたときにすぐ質問ができ、私も医学知識全般からお互いの国の研修医制度に関することまで、幅広く意見を交わすことができました。

ところで実習を終えた後は、交換留学のメンバーや現地で新たに知り合った医学生と共にダウンタウンなどに出かけて交流を深めることができました。大邱の街の紹介も含め美味しい料理や素敵なカフェ、買い物にも案内してくれました。そして日韓の文化や学生生活・医師を目指した理由、将来の希望まで多くのことを毎日話し合い楽しい時間を共に過ごしました。韓国の学生さんは日本への興味が強く、アニメや音楽といった若者文化により日本語も学んでおり、元々勉強熱心なものもあり私たちと話すことで語彙が更に増えていきました。彼らは本当に心優しく頼りがい



もあり、先に記した遊びの面のみならず日本人メンバーのそれぞれの科の宿題も一緒に取り組んでくれたりもしました。彼らと接する中で、私自身が韓国に対して抱いていたマイナスイメージを徐々に崩していくこともでき、人と人との繋がりは国ではないとはまさにこのことだと強く感じており、他国にてこのような素晴らしい医学生仲間と出会えたことを大変嬉しく思います。

話は少し変わりますが、2週間を通じて韓国・日本の医療を自分なりに日々比べてみたのですが、医学教育においては立派な施設を多く所有し医学英語にも日頃から慣れ親しんでいる面では韓国の方がはるかに勝っているかもしれないが、病院における標準予防策の徹底や日常的に使用される医療器具の充実度・豊富さ、医療技術の高さといった面では日本の方が優れているのではないかと感じました。おそらくこれは医療レベルの高さそのものだけでなく、日本に根付いてきた“繊細さ”があってこそだと思います。この

ような事柄は実際に自分の目でみて、肌をふれ、考えなければ分からなかったと思うので、6年生の忙しい時期でもこのプログラムへの参加を決めたことは間違いでなかったと感じております。そしてこれにより得た知識・繋がりを生かし、世界にも誇れる日本の医療を学んだ医師として、アジア全体の医療の向上・発展に携わることができれば幸いです、と考えています。

最後になりましたが、この交換留学を担当して下さった松永先生・永島さんをはじめ臨床検査部の皆さま、韓国への付き添いをして下さった放射線科の吉満先生、衛生・公衆衛生学教室の守山先生、腎臓・膠原病内科の三宅先生、啓明大学の先生方・学生さん、プログラムの費用面等の援助をして頂いた烏帽子会の皆さま、そして2週間を共に乗り切り大切な思い出を一緒に作ってくれたM6の交換留学メンバーに、心より感謝いたします。本当にありがとうございます。

Fukuoka-Keimyung University BSL Exchange Program 2014

佐倉悠介 (M6)

今回私は交換留学生として韓国の大邱市にある啓明大学でのBSL交換プログラムに参加しました。私はほとんど英語が話せませんでした。医師という職業は必ずどこかで英語を使う機会がありますし、これは英語に慣れる良い機会だと思い、思い切って参加しました。

博多港から船で約3時間、釜山に着くとそこには私たちと同じようにBSL交換プログラムに参加する韓国人学生達が出迎えてくれました。横断幕を用意してくれていて、大変温かく歓迎され、少し恥ずかしがりながら記念撮影をして、バスに乗り大邱に向かいました。

バスの中で自己紹介をしましたが、私の下手な英語もきちんと聞いてくれる優しい学生達で、安心したのを覚えています。最近日本と韓国の社会関係は良いとは言えない状況であったので、歓迎されないか、学生たちは怖くないかなど不安がありました。私た

ちが国の関係を気にしていないのと同様に、韓国人学生も全く気にすることなく、私たちを歓迎してくれました。

次の日から啓明大学でのBSLプログラムが始まりましたが、私は1週目に循環器内科、2週目に消化器外科を希望しました。私たち福岡大学の学生はこのプログラムに合計7名参加しましたが、1つの科に1人しか実習を行うことができず、初めはかなり不安でした。しかし、病院の指導医の先生方はとても優しく、簡単な英語で私にも分かるように症例や検査、検査結果について説明して下さり、ときには質問を投げかけてくださることもありました。英語で質問されているので当然英語で答えるのですが、日本語ではわかっても英語で答えるとなるとなかなか困難なことでした。答えられなかったことも多かったのですが、私も福岡大学を代表して参加させてもらっているからこそ、これ以上馬鹿にされたくないし、これまで

参加してきた先輩やこれから参加する後輩のためにも何とか少しでもくらいつこうと休み時間や寮に帰ってから医学英語について勉強しました。本当は病院実習前にすべきことだとは思いますが…

実習の内容としては福岡大学の実習と特に違いはなかったと思います。僕は1つの科に1週間という短い期間でしたので韓国の5年生よりもいろんな検査を見学させていただきましたし、またカンファレンスや先生の授業にも参加しました(カンファレンスはほとんど韓国語、授業は英語でした)。大変だったのが症例発表と論文発表でした。日本語でやっても時間がかかるのに、英語でやるとなると倍以上の時間がかかり、また英語で発表するため、何回も練習しました。実際良い発表ができたかどうかはわかりませんが、この経験は必ずどこかで生きてくると信じています。

放課後や週末についてですが、ほとんど毎日韓国の学生たちが遊びやご飯に連れていってくれました。旅行客向けの店から、地元の人が好きな店までたくさん案内してもらい、毎日本当に楽しく過ごすことが

でき、2週間で大邱を満喫できたと感じています。

今回このプログラムに参加して、大変なことも多くありましたが、それらを入れても心から参加して良かった、楽しかったと思える2週間でした。韓国の文化、医療の特徴、体制など少しではありますが、韓国のことを理解できたのではないかと考えています。現在日本と韓国はあまり良い関係を保てていないと言えるかもしれません。しかし、実際に韓国に行って全くそのようなことは感じませんでした。このプログラムが続くことで少しでも日韓関係がより良くなることを信じています。

最後になりましたが、多くの先生方、学校、同窓会の援助がなければこのプログラムは実施できなかったと思います。本当にありがとうございました。また、私と同じようにこのプログラムに参加したメンバーにもたくさん支えてもらいましたので、心から御礼を言いたいと思います。今後参加する後輩達に何かしらの形で貢献ができたと思いますので、これからもどうぞよろしく願い致します。



平成 26 年度烏帽子会主催福岡大学医学部 M4 年生激励会を終えて

病理学講座 教授 竹 下 盛 重 (3 回生)

2014 年 9 月 5 日 (金曜日)、天神ホテルモンテレーにて M4 年生 92 名、M4 主副担任 6 名、烏帽子会員 13 名とともに M4 激励会を行いました。今回は M4 年生の出席が 90 名を超えました。M5 年生 7 名が来て、M4 年生と話をさせていただき、出席者は有意義であったと思います。

会は、初めに神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター長(京都大学臨床教授)で 14 回生であります有吉孝一先生より、救急医療で遭遇する大切な疾患の解説と外から見た母校福岡大学について講演いただきました。経験された阪神淡路大震災、酒鬼薔薇事件、明石歩道橋将棋倒し、東日本大震災における救急医としての対応を話していただきました。また、学生時代に勉強することを習慣付けていこう、勉強するのは今でしょという内容で励ましていただきました。

その後は、七隈祭医学部委員長である標(しめぎ)玲央名君が司会進行役となり、懇親会が行われました。

その中で出席の副担任、OB の皆様、林英之眼科学教授、重田正義副会長、高木忠博会長等よりアドバイスを頂きました。チームワークの重要性、BSL 前に病気を理解すること、M5 で Student Doctor になる自覚、十分に勉強し M5, 6 を充実させること、国

家試験合格率を上げるのはみなさんであること、大学を卒業してからも盛り上げてほしいことという内容であったと思います。M4 学生からは北村由依子さん、大西葉月さん、中田安香さんによる米国 Harvard 大学への短期留学の話、宮部美圭さんによる Illinois 大学シカゴ校への短期留学の話、九山、西医体の報告、七隈祭実行委員による挨拶がありました。西医体でバスケットボール女子が優勝したといううれしい話が出てきました。頼もしい学生がいます。しかしながら、全体的にはクラブはやや低迷し、西医体に出場ができなかったチームもありました。私個人としては、寂しい気がしております。最後は全員で校歌斉唱を行い、終わりとなりました。司会の標(しめぎ)君の活躍でまとまったいい会が出来ました。

昨年は M4 年生の出席が半数を切りましたが、今回は 90 人を超えました。昨年度より朔先生が学部長になられたことや 3 月の新 M5 年生 Student Doctor 称号授与式は大きい効果であったと思います。また、M5 年生が 7, 8 人来て頂けるのが M4 年生には良い話し合いの機会かなと思います。私達教官も学生との話し合いの機会(小さい飲み会)を増やし対応していくつもりです。学生主体を趣旨として各学年のまとめ役が早めに対応しまとまりがある会になっていけば良いなと思います。

M4 激励会を終えて

標 玲央名 (M4)

こんにちは。今年度激励会の司会を務めさせていただきましたM4 標玲央名(しめぎれおな)です。今年度の激励会は9月5日、大名のホテルモントレラスール福岡にて開催されました。

初めに、神戸市立医療センター救急救命センターのセンター長である有吉孝一先生から救急のお話と福岡大学医学部の生徒に対してのお言葉をいただきました。「福大生は国試合格をゴールとしているがそこをスタートとしている大学がある」という話では、それを自覚したと同時に意識を変えなければならないと思いました。

また、烏帽子会会長の高木先生を初め、朔医学部長や多くの先生方からメッセージをいただきました。烏帽子会の先生方のお話は何度か聞かせていただく

機会がありましたが、僕ら後輩や福岡大学医学部全体のことを本当に気にかけていただいております。ありがたいことだと感じております。私たち学生の中からも将来このような偉大な先輩方のように、自分の母校を大切にする者が続かなければならないと感じました。僕らはまずM5のstudent doctorになれるよう今回の先生方のお言葉を念頭に置き、CBTやOSCEに向け勉強に励みたいと思います。

最後になりますが、激励会開催におきましてご尽力いただきました同窓会の諸先生方、学生側と連絡を取っていただいていた竹下先生に感謝の意を込め、学生を代表して御礼申し上げます。ありがとうございました。



講演中の有吉先生



受付中の標くん、中村さん



新入生歓迎会 5月29日(木) タカクラホテル福岡にて

支部便り

長崎支部便り

福岡大学医学部同窓会長崎支部 副会長 立石 訓 己 (8回生)

2005年6月に義父の医院継承の為長崎の地に参りました後、確か2006年8月頃ではなかったかと思いますが、現在同窓会佐世保支部会長の久保次郎先生(現佐世保医師会会長)より長崎に行くから会えないかとの連絡があり何事かと伺いました所“長崎支部はここ数年来支部総会も開かれていず、開店休業状態が長く続いている。お前何とかしろ”との事でした。私一人では何もできる術もなく、たまたま市内には‘78、‘79の先輩及び同窓生が7名おり、事情を話すと協力するとの事で最低でも10名近くの参加人数にはなると考え発足したのが、再開長崎支部同窓会の始まりです。

最初の総会は、2007年7月6日に行っており、その後毎年7月の第一あるいは第二金曜日に総会をするよう決め、ホテル(立食形式)で行っており今年で8回目を迎えました。同窓会支部再開に当たり、会の規約を変更しております。以前より佐世保は長崎支部より独立していることもあり、長崎支部の会員資格を長崎市内在住もしくは市内での勤務をされている先生方とさせていただきます。これは長崎全県を対象としては、連絡及び慶弔に関し著しく困難をきたすからであり、現実的には対応できないからです。ただし、総会参加希望の先生方には私までご連絡いただければご案内を差し上げさせていただきます。この場をお借りして改めて周知させていただきます。

2009年からは会員の希望にて11月に“飲み会”も行い年2回の集まりとなっております。この会は居酒屋で行っております。各々約20名以上の参加を得ております。

総会は講演も行ってお

ります。2009年度は福岡博愛会病院副院長(現糸島医師会病院副院長)渡辺良二先生、福岡大学病院放射線科 藤光律子先生、2010年度福岡大学医学部眼科教授 林英之先生、2011年度福岡大学医学部心臓・血管内科学講座教授 朔啓二郎先生、2013年度福岡大学医学部形成外科講座教授 大慈弥裕之先生、2014年度(今年)福岡大学筑紫病院外科診療教授 二見喜太郎先生という錚錚たる先生方においていただきご講演を賜っております。また、今年と同窓会本部から副会長 重田正義先生もおいで頂き、同窓会活動について熱く語っていただきました。

今後も同窓会諸先輩のお力をお借りしてこの会を盛り上げていきたいと考えております。

8年間の経過で今後の問題点としては、若い方の参加をどう促すかという問題があります。と言いますのは福岡市内以外の他の支部も同様と思いますが卒業後は地元の大学に入局する会員がほとんどであるため福岡大学に対する帰属意識が弱く、福岡の会員との温度差は大きいものがあるためだと考えます。同窓会本部もそのことは肝に銘じ、今後の企画等を考えて欲しいと思っております。

今後とも何卒宜しく願いいたします。



同窓会事業

—お知らせ—

烏帽子会病診連携事業烏帽子会印について

烏帽子会では、病診連携事業を推進する予定です。

先日来、田村福岡大学病院長、大慈弥副院長（3回生）から、福岡大学病院の将来のためには烏帽子会員と福大病院の緊密な連携が欠かせないという御提案を頂戴しました。烏帽子会としても、同窓会員と母校病院の親密な関係は望ましいものと考えております。そこで、烏帽子会執行部内に病診連携委員会を立ち上げ、大慈弥副院長に委員長就任をお願いし、委員を権藤福岡支部長（1回生）、二田理事（9回生）、鍋島茂樹総合診療部長（13回生）に委嘱しました。すでに第一回委員会が開催され、さまざまな事業が企画されています。

まず基本事項として烏帽子会員からの御紹介を病院が識別して認識する必要があります。そこで、「烏帽子会印」を作成いたします。会員の皆様が、患者様を福大病院にご紹介頂く際に、この印判を紹介状に押印して頂ければ、病院は烏帽子会員様からの御紹介であることを容易に認識でき、以後の応対に格別の注意が払えます。

まずは福岡県内で開業中の会員にお送りしますが、ご希望があれば事務局にご連絡いただければ送付させていただきます。

（文責：林英之）



めっきり寒くなってまいりました。

同窓会では会員の皆様の幸せな笑顔を見たくて、子女の結婚活動を補助する事業を行っています。事業を立ち上げてはや2年が過ぎましたが、未だ一件も成立していない現状です。当初から申し込みの皆様には、大変お待たせを致しまして申し訳ありません。

貴方の人生の大切な出会いを同窓会に任せていただけませんか。

これからの人生の大部分をともに過ごす相棒です。慎重に考える事も大切ですが、思い切って我々に任せてみる事も必要ではないでしょうか。

事を起こす時、心機一転するとき側にいて相談相手になってくれたり、そっと一緒にたたずんでいてくれたり、とても心つよい存在です。

結婚はそればかりでなく夫々の家族同士の付き合いも大切になってきます。

同窓会ではそこも大切に考えて活動しています。

是非ご連絡をお待ちしております。

文責 担当理事 田野茂樹（6回生）



会員寄稿

新レディコン開催！～OGと学生の交流～

正木 稔子 (26回生)



2014年5月31日。新しい試みを始めてみました。題して「OGの話が聞ける!♡レディコン♡」女医と女子医学生の交流を目的としたイベントです。

女子医学生の頃の漠然とした悩みは、女医になって現実問題として目の前にやってきます。

結婚は?妊娠・出産は?子育てどうするんだ?で、仕事は?????

女性としての生活も大事にしたいし、仕事もちゃんとしたい!両方うまくやるにはどうしたらいいんだろう???

仕事が半端なく忙しく、女医になってからじっくり考える暇もなかった。。学生の頃にもっと考えていればよかった。BSLでは先生にプライベートなことは細かく聞けないし、部活の新歓や忘年会は女医さんが来ることが少なくざっくばらんに聞けなかった。

そして私はバツイチになってしまいました(笑)。(今となってはネタなんですよ…!) 先輩たちにはこんな思いをしてほしくない。バスケ部の現役女子医学生の先輩たちに女医の生活について話をすると「聞けて良かったです!もっと聞きたいです!」と言ってくれたのです。私の失敗談だけではなく、仕事と家庭を両立している先輩たちの話も聞かせてあげたい。

幹事をお願いした現5年生の井上泉さんと大久保美穂さんと黒田明日

香さんが、全学年の女子に案内をしてくれ、会場探し、値段交渉、全員プレゼントの用意と、BSLの忙しい最中、とっても良くやってくれました。(写真1、2)

初めての試みにもかかわらず、しかも新歓真っ只中で在校生たちも忙しい中、1～6年生の30人の女子医学生が集まり、開催することができました。当日、ドタキャンならぬドタ参加…「今日行ってもいいですか??」と連絡をくれた方もいました。バスケ部の先輩であるMM94の槇彰子さんをゲストに迎え、私も進行役兼ゲストということで進めました。

まず、幹事の学生さんからゲストの紹介。そこから進行は私が引き継ぎ、トークショーのような形。幹事さんにもゆっくり聞いてもらえるようにしました。

槇さんと私の学生時代はどんなだったか、部活や飲み会や委員会…ハチャメチャな写真もいっぱい。今の科を選んだ理由。現在の仕事の内容。結婚、妊娠、出産、子育てをどう仕事と両立しているのか。女医の働き方の色々。女医で良かったこと、女医だからこその役割。医者ってどんな仕事か。という内容でした。



(写真1)



(写真2)

MM82の武末佳子先生も駆けつけて下さり、女子医学生さんたちへのメッセージを頂戴しました。

トークショーが終わると、OGが各テーブルに行き、質問を受けます。

「学生の頃に付き合ってた彼と結婚した人はいますか?」

「薬膳や漢方ってどんな風に勉強するんですか?実はこういう症状があつて。。」

「女医さんにこんないろいろな働き方があるって知りませんでした。」

「大学病院にいる先生方が本当に大変そうで、正直不安になっていました。私、医者になって大丈夫かな?って。でも、先輩方がとっても楽しそうに働かれていますのを見て希望がわきました!」

(1次会は写真を撮り損ねましたので、2次会の写真です…写真3)

学生さんたちはとっても喜んでくれ、「半年に一度は開催してほしい」と要望をもらい、今後は通常のレディコンとは別に6月、12月くらいに開催していこうと思っています。男子学生さんからも「レディコンを聞きに行きたい」と要望をもらいましたので少し形態を変えようかとも考えています。

ゲストとして話をしてくださる同窓生の女医さん、また人前で話すのは苦手でも学生さんたちとテーブル



(写真3) 左から
石松由季子さん (M5)、正木稔子、柴田稜子さん (M5)、佐藤真央さん (M5)、井上 泉さん (M5)、黒田明日香さん (M5)、榎 彰子さん (MM94)、田村瑤子さん (M5)、大久保美穂さん (M5)

で話をしてくれる女医さん、大募集です!是非ご連絡ください。toshikomhrmt228@yahoo.co.jp

学生さんと話す中で、「漢方をもっと知りたい」という声ももらいました。

私は東京で、ドクター向けの漢方セミナーの講師をさせていただいているので、後輩の希望にお応えして7月27日には在校生主催で5、6年生が集まり漢方セミナーも開催しました。(写真4)

こういう形で後輩たちのサポートができることを、心からうれしく思います。

国家試験合格率が取りざたされていますが、技術や学問を促進するために根本的に必要なのは意欲。私たち「福大は合格率が悪くてダメだ!」と言われ続けて学生時代育ちましたが、「お前はダメだ」と言われて勉強する意欲は湧きません。国家試験は最終目標なのではなく、スタートでしかないのです。その先を見据えて医者という仕事へのモチベーションを高め、学生さんたちがもっと勉強をしたくなるよう、また意気揚々と社会へ出ていけるよう、私にできるサポートを私なりのアプローチでしていきたいと思っています。

ご参加下さった先輩後輩のみなさん、また気に留めて応援して下さったみなさん、ありがとうございます。今後ご協力くださるOGの方、ご連絡お待ちしております!



(写真4) 左上から
森本浩之くん (M5)、藤田晃浩くん (M6)、大久保美穂さん (M5)、井上 泉さん (M5)
左下から
佐藤真央さん (M5)、正木稔子、石松由季子さん (M5)

キャンパスだより

《烏帽子会賞受賞者一覧》

愛好会名	受賞者	受賞対象
柔道愛好会	団体表彰	第65回西日本医科学生総合体育大会 団体3位
剣道愛好会	中山 敦 貴	第65回西日本医科学生総合体育大会 個人準優勝
水泳愛好会	高岡 千 容	第65回西日本医科学生総合体育大会 個人女子 100M バタフライ 第2位, 400M 自由形第2位
バスケットボール愛好会	団体表彰	第65回西日本医科学生総合体育大会 女子バスケットボール愛好会 第3位
バスケットボール愛好会	団体表彰	第47回全日本医科学生体育大会王座決定戦 女子バスケットボール愛好会準優勝
サッカー愛好会	団体表彰	平成26年度第53回九州山口医科学生体育大会 準優勝
バドミントン愛好会	藤尾 真美子 中川 丞 子	平成26年度第53回九州山口医科学生体育大会 個人ダブルス準優勝
バスケットボール愛好会	団体表彰	平成26年度第53回九州山口医科学生体育大会 女子バスケットボール愛好会準優勝
水泳愛好会	高岡 千 容	平成26年度第53回九州山口医科学生体育大会 個人女子 100M バタフライ第2位



烏帽子会賞を受賞して

サッカー愛好会 後藤 均 (M4)



この度、第53回九州山口医科学生体育大会サッカー部門準優勝という成績により、烏帽子会賞をいただきました。ありがとうございました。

振り返ってみると、福大は今大会のダークホース的な存在であったと思います。というのも、大会前の練習試合ではなかなか勝つことが出来ず、加えて怪我を抱える部員も多く、多少の不安を残しながら大会に臨みました。相手チームもあまり警戒していなかったように思います(笑)。しかし、1回戦を苦しみながら

もPK戦で勝利したことで、チーム全体がまとまり、波に乗ることが出来ました。

さて、サッカーはチームスポーツですが、実際にプレーが出来るのは先発11人と途中出場の選手数人です。今大会でも出場出来ない部員はいました。サッカー愛好会に限らず医学部の愛好会は、そのスポーツを幼少時からやってきた人、大学で初めてやる人など、様々な人たちが一緒に活動をしています。サッカー愛好会では、大会前はどうしても試合に出る人を中心とした練習・試合が多くなります。先ほど“チームがまとまり”と書きましたが、このような事情があるため、真にチームがまとまることはなかなか難しいのが実情だと正直思っていました。

今大会、決勝まで辿り着くことが出来たのは、まさにこの部分が上手く行ったからだと思います。試合に出られる人、出られない人、そしてマネージャーと立場が異なっても皆がチームの勝利のための行動をしていました。きっと各々思うところもあったと思います。

あと一步の所で優勝を逃したことは本当に残念でしたが、サッカー愛好会のチームワークを実感出来た有意義な大会でした。

最後となってしまいましたが、今大会は福岡県内での開催ということもあり、多くのOB・OGの先生方が応援に来てくださいました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。今後ともサッカー愛好会をよろしく願います。



西日本医科学生総合体育大会を終えて

水泳愛好会 近藤良紀 (M3)

私は中学、高校時代、剣道部に所属していましたが、同学年の友人の勧めもあって水泳愛好会に入部しました。小学校低学年以来遠ざかっていた水泳に向き合うことになり、当初はとまどいもありましたが、先輩方の温かい励ましや新たに入部してきた後輩たちのひたむきな姿にしたいに心が熱くなってきました。私達水泳愛好会は毎週月水金の週に三回、本学のプールで活動しています。各々が自分の目標をもって、日々練習に励んでいます。夏休み期間中は普段より練習量を増やし、全員一丸となって技術向上さらにタイム短縮に試行錯誤してきました。

先日行われた、西日本医科学生総合体育大会では、私自身、自己ベストを更新できたことに達成感を感じましたが、他大学の学生ははるかにレベルの高い記録を出し、これで同じ医学生なのかと大きな隔たりすら覚えました。同時に自分ももっと努力できるはずだと思い知らされた大会でした。これからも自分のベストを更新していき、速い選手のタイムに近づけるよう努力して参りたいと思います。

プールへ向かう足取りが重くなることもありますが、共に切磋琢磨し合う仲間たちがいてくれてこそ、喜びや楽しみも感じることができます。互いの胸の内を本

音で語り合い、激論することもあれば理解し合う、譲ることもあれば強い意志を示す。私は良き先輩や後輩、朋友に恵まれ、水泳愛好会に入部し本当によかったと思っています。

最後になりましたがこれまでお世話になった顧問の先生、OBの先生方、先輩方、友人達に感謝の意を表すとともに、今後とも水泳愛好会を末永く見守っていただきますようよろしくお願いします。



烏帽子会賞を受賞して

福岡大学医学部バドミントン愛好会 中川 丞子 (M6)
藤尾 真美子 (M6)



今回はこのような賞をいただき誠にありがとうございます。私たちは第53回九州山口医科学生体育大会において、個人戦ダブルス準優勝という成績を残すことができました。6年生になり勉強に追われて満足に練習しきれず、とにかく最後の九山を楽し

むことを第一とし、そこに結果がついてくれば・・・という気持ちで臨んだため、この結果には私たち自身も大変驚いています。

私達は今までお互い先輩と組むことが多かったため先輩に頼ってばかりのバドミントンをしていました。しかし今回は初めて同学年でペアを組んだため、気心が知れた仲であるが故に、つい馴れ合いをしてしまい緊張感のない試合をしてしまうのではないかという不安がありました。そこで、緊張感を持ちつつ笑顔を忘れない先輩方の姿を思い出し、それを目標に頑張ることで、お互いに鼓舞しあって悔いのない試合をすることができました。

このペアは今回の九山が最初で最後となりましたが、その貴重な一回で今まで共に頑張ってきた同級生と結果を残せたことが嬉しいです。

この結果を残せたのは、いつも温かいご支援をくださるOB、OGの先生をはじめとして、今まで私たちにバドミントンを教えてくれた先輩方、切磋琢磨した同

級生、練習で私たちがやりやすいように気を配ってくれた後輩の支えがあったからです。本当にありがとうございました。



バスケットボール愛好会

福岡大学医学部バスケットボール愛好会 稲田 悠希 (M4)

女子バスケットボール部は、この度、第五十三回九州山口医科学性体育大会で準優勝することができました。烏帽子会賞を受賞させていただき、ありがとうございます。

女子バスケットボール部には、医学科と看護科の学生が所属しています。バスケットボールの大会は、西医体では看護科のプレーヤーが出場できなかったり、コメディカルの大会では医学科の5・6年生が出場できなかったりと、大会によって様々な制限があります。その中で、九山は、唯一全員が出場できる公式戦です。さらに、毎年なかなか結果を残せていなかったこの大会でこのような結果を残すことができ、大変嬉しく思います。

1月のオフがあけてから九山優勝を目標に練習してきましたが、練習試合では上手く行かないことも多く、九山直前までチームの状態は決していいとは言えませんでした。自分はどうすれば良いのか悩んだり不安に思うことも多かったです。

しかし、本番では、試合を重ねるごとにチームは成長し、勝ち進んで行くことができました。コーチ、プレーヤー、マネージャー全員が一つになり、一つの目標に向かって戦えたことが準優勝につながったのではないかと考えています。忙しい中コーチをしてくださった猪狩さん、また、応援していただいたOB・OGの先生方、男子バスケ部の皆さん本当にありがとうございました。

まだまだ頼りない未熟な人間ですが、これからもっと良いチームを作れるよう、キャプテンとして頑張っていきたいと思います。決勝戦で負けた時の悔しさ

や今大会で感じたものを忘れずに、夏に行われる西医体では優勝を目指します。



福岡大学医学部同窓会 烏帽子会賞褒賞基準

- (目的) 福岡大学医学部同窓会(以下烏帽子会という)は、その所属する学生会員が対外試合または活動において優勝し或いは優秀な成績を収めた場合、その団体または個人に対し、その榮譽を讃え賞状、賞金または賞品を授与してこれを表彰する。
- (賞の名称) この賞を烏帽子会賞という。
- (対象試合等) 表彰の対象となる試合または活動とは、概ね西日本医科学生総合体育大会、九州 山口医科学生体育大会を含むその規模以上のものを云い、内容は単に体育関係のみならず学術、芸術等多岐に亘るものとする。
- (申告書の提出) 烏帽子会は烏帽子会が表彰に値すると認めた団体または個人、或いは自ら表彰を希望する団体または個人に対し、烏帽子会賞申告書及び賞状の写しをを提出させる。
- (表彰の審査) 表彰の審査及び賞金額の決定は理事会において行う。
賞金または賞品の支給基準額は別表の通りとする。
- (表彰) 表彰は総会、理事会等の席上で行い賞金を授与し会報に掲載する。
付則 1、この基準は平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
2、この改正基準は平成 22 年 1 月 15 日から施行する。

別表) 烏帽子会賞の基準

		西医体：A		全医体：B		九山：B		その他：C	
団 体	優 勝	A-1	50,000円	B-1	30,000円	B-1	30,000円	C	その都度判定
	準優 勝	A-2	40,000円	B-2	20,000円	B-2	20,000円		その都度判定
	3 位	A-3	30,000円						
	4 位	A-4	20,000円						
個 人	優 勝	A-3	30,000円	B-2	20,000円	B-2	20,000円	C	その都度判定
	準優 勝	A-2	20,000円	B-1	10,000円	B-1	10,000円		その都度判定
	3 位	A-1	10,000円						

※但し烏帽子会賞は同一大会に1個とし、上位の成績を表彰する。参加チーム数の少ない場合は理事会にて減額することができる。
5年連続受賞においては殿堂入りと賞する。

訃 報

特別会員	檀 健 二 郎 先生	平成 26 年 7 月 31 日	ご逝去 (麻酔学)
正 会 員	北 島 竜 夫 先生	平成 25 年 3 月 28 日	ご逝去 (16 回生)
正 会 員	萱 場 光 治 先生	平成 26 年 2 月 18 日	ご逝去 (14 回生)
正 会 員	三 宅 夕 美 先生	平成 26 年 5 月 29 日	ご逝去 (17 回生)
正 会 員	豊 島 潔 先生	平成 26 年 6 月 1 日	ご逝去 (7 回生)
正 会 員	四 宮 義 浩 先生	平成 26 年 6 月 2 日	ご逝去 (11 回生)
正 会 員	富 田 祥 夫 先生	平成 26 年 8 月 31 日	ご逝去 (4 回生)
正 会 員	加 藤 清 信 先生	平成 26 年 11 月 4 日	ご逝去 (13 回生)

萱場光治君を偲ぶ

たなか皮ふ科クリニック 院長 田 中 達 朗 (12 回生)



平成 26 年 2 月 18 日、萱場光治君 (14 回生) が大腸がんのため亡くなりました。

萱場光治君は平成 3 年に福岡大学医学部卒業後、福

大泌尿器科で臨床研修を積んだ後、家庭の事情もあり、平成 5 年、佐賀医科大学皮膚科に入局しました。私も一足早く佐賀医大皮膚科に入局していましたので、同じ福大卒業生として恥をかくわけにはいかないと、夜遅くまで職場に残り仕事をこなしていた仲でした。彼は、佐賀医大皮膚科の病棟医長、医局長、佐世保共済病院皮膚科医長を歴任し、平成 14 年、宮若市の実家の本城医院に戻られました。土日関係なく診療をしていたとのことですが、患者さんも多く、地域での信頼も厚かったようです。そんな彼の趣味は、美味しいものを食べることであり、私たち (佐賀医科大皮膚科医局員) は、美味しいお店をよく紹介してもらったものです。そんな中、彼を襲った病魔、内視鏡

的に切除され、一度は回復したかに思いましたが、その後再発し、治療のため入退院を繰り返すようになりました。彼を元気づけようと、この 1～2 年は 2 ヶ月に一度程、福岡で食事会を開き、萱場君には「体調が悪ければ無理しないでいいから」と言っていました。入院してても外泊届を出し、腎瘻造設した後でも、必ず我々の前にその姿を見せ、自分の病状を説明し、「今度の薬に期待している。」と、いつも前向きに闘病生活を送っていました。しかし、今年の 1 月中旬、病状進行による胸椎の骨折にて足は立たなくなり、彼から緩和ケア病棟に移ると連絡を受け、見舞った際、ペインコントロールのため意識が時々途切れながら、「もう疲れました。早く楽になりたい。」とつぶやいていました。「とにかく、また来るから元気にしとけよ。」と言い残し別れましたが、平成 26 年 2 月 18 日、奥様のお話では、家族に見守られながら眠るように永眠されたとのこと。49 歳と非常に若く、彼の無念さを思うと言葉になりません。ただ、彼のいつも前向きに病気に立ち向かっていた姿は、私たちの脳裏に焼き付き、忘れることはありません。今はただ安らかに眠っていただきたいと、仲間一同祈念致しております。

福岡大学医学部同窓会諸表

平成 25 年度収入支出決算

区分	科 目	25 予算 :A	25 決算 :B	25 決算予算比較	決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	11,785,897	11,785,897	0	
	会 費 収 入	27,747,000	29,117,235	1,370,235	入会費 :5,792,090 学年会費 :4,423,450 年会費 :18,749,175 準年会費 :152,520
	手 数 料 収 入	160,000	1,425,353	1,265,353	契約件数 12 人 13 件
	協 賛 金 収 入	0	0	0	
	雑 収 入	50,000	398,720	348,720	グッズ売上ほか
	預 り 金 収 入	50,000	47,312	▲ 2,688	
	積 立 金 繰 入	0		0	
仮 受 金	0		0		
合 計		39,792,897	42,774,517	2,981,620	
支 出	給 与	3,330,000	3,219,190	110,810	パート 2 名
	旅 費	2,020,000	2,490,360	▲ 470,360	役員旅費 :653,080 評議員会 :481,820 私大連絡会 :477,190 その他 :878,270
	事 務 用 品 費	400,000	384,530	15,470	
	印 刷 費	2,821,000	2,018,365	802,635	会報 :1,726,750 封筒 :116,310 その他 :175,305
	通 信 運 搬 費	1,500,000	1,190,292	309,708	電信電話 :85,155 会報 :556,692 切手葉書 :189,805 その他 :358,640
	設 備 工 事 費	240,000	210,000	30,000	維持契約
	什 器 備 品 費	240,000	505,120	▲ 265,120	パソコン 2 台 デジカメ ラジカセ
	事 業 費	17,330,000	12,602,476	4,727,524	総会費 :237,238 講師招聘援助費 :230,000 支部活動援助費 :1,256,130 研究奨励賞 :1,411,442 在外研究援助金 :1,200,000 新入生歓迎会 :814,919 M 4 激励会 :613,933 M 6 激励会 :808,300 Φ BK:550,272 学生との懇親他 :325,755 M 5 白衣贈与 :1,018,190 学会寄付 :1,550,000 M 6 対象実施国試直前セミナー :150,000 M 5, M 4 対象実施国試対策牧野講演会 :148,915 国試前日医師派遣 :30,000 国試弁当差入 :100,000 その他差入 :131,715 支部祝儀 :120,000 学生行事援助 :732,795 支部活動費 :967,352 慶弔贈与 :205,520
	会 議 費	2,000,000	1,894,957	105,043	理事会、会長懇話会 :840,087 評議員会 :446,002 各種会議他 :608,868
	公 租 公 課	70,000	29,500	40,500	福岡県民税 :8,700 福岡市民税 :20,800
	雑 費	3,031,500	1,301,806	1,729,694	税理士報酬 :31,500 渉外費 :127,589 業務用グッズ :416,666 その他 :726,051
	預 り 金 支 出	50,000	43,302	6,698	給与源泉徴収税
	引 当 金 積 立	4,000,000	0	4,000,000	
協 賛 金 支 出	0	0	0		
借 入 金 返 却	0	0	0		
予 備 費	2,760,397	0	2,760,397		
合 計		39,792,897	25,889,428	13,903,469	
収 支 差 引		0	16,884,619	16,884,619	

平成 25 年度残金処分

残金額 (収支差引額)	16,884,619 円
事業積立金積立	1,000,000 円
刊行物積立金	2,000,000 円
次年度繰越	11,884,619 円

平成 25 年度特別会計決算

	事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	87,086,106	11,231,375	8,051,340	106,368,821
本年度増加額	0	750,000	1,000,000	1,750,000
本年度受取利息	4,464	0	0	4,464
本年度減少額	▲ 606,657	0	▲ 11,477	▲ 618,134
本年度未決算額	86,483,913	11,981,375	9,039,863	107,505,151

平成 25 年度事業報告と平成 26 年度事業計画

項目	年度		平成 26 年度 事業計画	
	平成 25 年度 事業計画 予算 (A)	平成 25 年度 事業報告 実績 (B)	平成 26 年度 事業計画 予算 (C)	C - A
① 会報の発行	3,262,900	2,283,442	3,333,200	70,300
② 総会の開催	300,000	237,238	400,000	100,000
③ 支部活動援助	1,550,000	2,453,482	1,550,000	0
④ 研究奨励賞	1,500,000	1,411,442	1,600,000	100,000
⑤ 在外研究援助	1,500,000	1,200,000	2,000,000	500,000
⑥ 学生対策	2,800,000	3,113,179	3,400,000	600,000
⑦ 白衣贈与	1,000,000	1,018,190	1,000,000	0
⑧ 国試対策費	2,000,000	560,630	2,000,000	0
⑨ 支部祝儀贈与	230,000	120,000	230,000	0
⑩ 学生行事援助	800,000	732,795	800,000	0
⑪ 学会寄付	1,000,000	1,550,000	2,000,000	1,000,000
⑫ 慶弔贈与	300,000	205,520	300,000	0
⑬ グッズ作製	0	0	0	0
⑭ 会員名簿発行	0	0	0	0
⑮ バニックマニュアル発行	0	0	5,000,000	5,000,000
⑯ 奨学金貸与	0	0	0	0
⑰ 縁結び	1,000,000	0	1,000,000	0
⑱ 保険コンサルティング	0	12,960	30,000	30,000
合計	17,242,900	14,898,878	24,643,200	7,400,300

平成 26 年度収入支出予算

区分	科目	25 予算	26 予算	26 年度予算摘要	26 予算-25 予算
収入	繰越金	11,785,897	11,884,619		98,722
	会費収入	27,747,000	28,447,000	入会費:5,190,000 学年会費:4,446,000 年会費:18,680,000 準年会費:131,000	700,000
	手数料収入	160,000	360,000	保険コンサルティング紹介手数料	200,000
	協賛金収入	0			0
	雑収入	50,000	50,000	グッズ売上ほか	0
	預り金収入	50,000	40,000	給与源泉徴収税	▲ 10,000
	積立金繰入	0			0
	仮受金	0			0
合計	39,792,897	40,781,619		988,722	
支出	給与	3,330,000	3,330,000	パート 2 名	0
	旅費	2,020,000	2,100,000	役員旅費:600,000 評議員会:500,000 私大連絡会:500,000 その他:500,000	80,000
	事務用品費	400,000	400,000		0
	印刷費	2,821,000	2,867,000	会報:2,507,000 封筒:200,000 その他:160,000	46,000
	通信運搬費	1,500,000	1,750,000	電信電話:100,000 会報:800,000 切手葉書:600,000 その他:250,000	250,000
	設備工事費	240,000	240,000	維持契約:210,000 その他:30,000	0
	什器備品費	240,000	240,000		0
	事業費	17,330,000	19,630,000	総会費:400,000 講師招聘援助費:350,000 支部活動費:1,550,000 研究奨励賞:1,600,000 在外研究援助金:2,000,000 新入生歓迎会:900,000 M4 激励会:900,000 M6 激励会:900,000 M7 激励会:100,000 その他:600,000 M5 白衣贈与:1,000,000 国試対策費:2,000,000 支部祝儀贈与:230,000 学生行事援助:800,000 学会寄付:2,000,000 慶弔贈与:300,000 縁結び支援費:1,000,000 事業予備費:3,000,000	2,300,000
	会議費	2,000,000	2,000,000	理事会、会長懇話会:700,000 評議員会:500,000 各種委員会:300,000 その他:500,000	0
	公租公課	70,000	70,000	福岡市県民税	0
	雑費	3,031,500	3,031,500	税理士報酬:31,500 渉外費:1,000,000 寄付金:1,000,000 その他:1,000,000	0
	預り金支出	50,000	40,000	給与源泉徴収税	▲ 10,000
	引当金積立	4,000,000	2,000,000		▲ 2,000,000
協賛金支出	0			0	
借入金返却	0			0	
予備費	2,760,397	3,083,119		322,722	
合計	39,792,897	40,781,619		988,722	
収支差引	0	0		0	

医局長・医長名簿 (○内の数字は福大医学部卒業回)
(平成26年10月現在)

	医 局 長	病棟医長	外 来 医 長
[福大病院]			
腫瘍・血液・感染症内科	戸川 温	猪狩 洋介 ⑳	後藤 敏孝
内分泌・糖尿病内科	田邊 真紀人	永石 綾子 ㉗	村瀬 邦崇
循環器内科	上原 吉就 ⑩	今泉 聡 ㉕	藤見 幹太 ⑱
消化器内科	竹山 康章 ⑮	渡邊 隆 ㉔	青柳 邦彦
呼吸器内科	白石 素公 ⑪	石井 寛	田中 誠 ㉗
腎臓・膠原病内科	安部 泰弘 ㉑	伊藤 建二 ㉕	安野 哲彦 ㉔
血液浄化療法センター		笹 富佳江 ⑬	
神経内科・健康管理科	津川 潤	深江 治郎	福原 康介 ㉖
精神神経科	田中 謙太郎 ㉕	縄 田秀幸 ㉖	内田 直樹
々 (デイケア)			吉田 公輔
小児科	井手口 博 ⑲	井手 康二 ㉒	吉兼 由佳子 ⑲
消化器外科	橋本 竜哉 ㉑	武野 慎祐	谷村 修
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	濱武 大輔 ㉐	平塚 昌文 ⑬	宮原 聡
整形外科	金澤 和貴	信藤 真理 ㉔	白地 仁 ㉓
形成外科	大山 拓人 ㉖	川上 善久	木村 広美
脳神経外科	野中 将 ⑯	湧田 尚樹	勝田 俊郎
心臓血管外科	和田 秀一 ⑬	助弘 雄太	峰松 紀年
皮膚科	古賀 文二 ㉓	大賀 保範	立松 沙織 ⑳
泌尿器科	松岡 弘文 ⑧	中村 信之 ⑩	古屋 隆三郎 ㉓
産婦人科	城田 京子	讚井 絢子 ㉔ (産科) 勝田 隆博 ⑳ (婦人科)	宮原 大輔 ㉐
眼科	梅田 尚靖 ⑱	外尾 恒一 ㉔	有田 直子 ⑮
耳鼻咽喉科	上野 哲子 ㉔	福崎 勉 ㉐	佐藤 晋 ⑳
放射線科	高良 真一 ⑱	赤井 智春 ㉗	品川 喜紳
麻酔科	重松 研二 ㉑	平田 和彦 ⑫	平田 和彦 ⑫
歯科口腔外科	大谷 泰志	青柳 直子	高岡 昌男
病理部	溝口 幹朗 ⑥		
臨床検査部	松本 直通 ⑭		
輸血部	熊川 みどり		
救命救急センター	西田 武司 ㉓	田中 潤一	
総合周産期母子医療センター		中村 公紀 ⑯ (新生児部門) 廣瀬 龍一郎 (3階南病棟)	
総合診療部	武岡 宏明 ㉕	鯨坂 和彦 ㉗	鍋島 茂樹 ⑬
東洋医学診療部	久保田 正樹 ⑭		
[筑紫病院]			
筑紫病院 (総医局長)	市川 大輔 ㉕ (耳鼻いんこう科)		
循環器内科	※東 條 秀明 ⑰	岡村 圭祐 ㉔	森 憲 ㉑
内分泌・糖尿病内科	工藤 忠睦 ㉓	阿部 一朗	小林 邦久
呼吸器内科	宮崎 浩行	赤木 隆紀 ㉑	児玉 多 ㉗
消化器内科・内視鏡部	光安 智子	矢野 豊 ㉔	二宮 風夫 ㉖
小児科	森島 直美	中村 紀子	鶴澤 礼実
外科	平野 公一 ㉑	平野 由紀子 ㉓	三宅 徹 ㉓
整形外科	秋吉 祐一郎	櫻井 真 ㉗	城島 宏 ⑭
脳神経外科	伊香 稔	坂本 王哉 ㉘	新居 浩平 ㉔
泌尿器科	平 浩志 ⑮	平 浩志 ⑮	宮嶋 哲匡 ⑲
眼科	佐々 由季生	佐々 由季生	梶原 淳 ㉘
耳鼻いんこう科	市川 大輔 ㉕	市川 大輔 ㉕	坂田 俊文 ⑩
放射線科	藤井 暁 ⑮		
救急科	市来 玲子 ⑳		
麻酔科	生野 慎二郎 ⑧		
病理部	原岡 誠司		

(筑紫病院の※印は、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長)

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）[平成 26.4.2 ~ 26.10.1]

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退職	衛生・公衆衛生学	准教授	三宅吉博	26. 6. 30	
退職	救命救急医学	講師	梅村武寛	26. 7. 1	
退職	心臓血管外科	講師	西見優	26. 8.31	
	手術部	准教授	星野誠一郎	26. 9.30	
	筑紫脳神経外科	講師	中井完治	26. 9.30	
	衛生・公衆衛生学	講師	今任拓也	26. 9.30	
	衛生・公衆衛生学	講師	田中景子	26. 9.30	
	薬理学	講師	藤井誠	26. 9.30	
退職	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	講師	柳澤純	26. 9.30	
	整形外科	講師	毛利正玄 ⑯	26.10. 1	26.10.1 ~ 27.3.31
採用	生理学	講師	沼田朋大	26.10. 1	
	脳神経外科	講師	森下登史	26.10. 1	
	心臓・血管内科学	講師	福田佑介	26.10. 1	
	整形外科	講師	木山貴彦 ⑳	26.10. 1	
昇格	医学教育推進講座	教授	安元佐和 ㉑	26.10. 1	小児科兼務
	再生・移植医学	教授	小玉正太 ㉒	26.10. 1	内分泌・糖尿病内科兼務
	総合周産期母子医療センター	診療教授	廣瀬龍一郎	26.10. 1	
	救命救急医学	准教授	岩朝光利 ㉓	26.10. 1	
	筑紫脳神経外科	准教授	堤正則	26.10. 1	
	筑紫消化器内科	准教授	平井郁仁 ㉔	26.10. 1	
	臨床検査医学	講師	大久保久美子	26.10. 1	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	講師	吉田康浩 ㉕	26.10. 1	
	総合周産期母子医療センター	講師	甲斐裕樹	26.10. 1	
整形外科	講師	前山彰 ㉖	26.10. 1		


編 集 後 記

今期より大慈弥教授から小玉(13回生)が広報担当理事を引き継ぎました。私は長年にわたり福岡を離れていましたので、国内外の各地の赴任先へ送られてきます会報を眺め、大学や病院の変貌に驚きました。また10年以上前の研究奨励賞報告をはじめ留学記や各種報告など、私も寄稿した事を思い返しなが、卒後本会報と歩んだ歴史を懐かしく振り返っていました。

本会報は大慈弥教授が編集されていた2009年にA4版となり、内容も年々充実したものとなってきました。紙面は書き手からの情報発信の場ではありますが、可能な限り読み手の欲する情報を提供する事も、編集の責務と考えています。例えば、学術論文誌でも検証結果を通り一遍に報告しても、受理されない事に似た様な所がある様に思われます。時勢や先取性に富む事や、新規性に話題性を持たせるストーリー性も重要なポイントして、今後は編集に加味出来ればと考えています。

最後になりましたが、同級生や先輩・後輩の活躍や悲報も、本会報を通じて知る事が多く、本会報を読んだ後友人に電話をかけ、近況を話し合った事もありました。今回会員の御訃報に接し、心から哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈り致します。

文責 小玉 正太 (13回生 広報担当理事)



第34回 福岡大学 医学祭を終えて

本年度11月1日～3日に行われました第34回福岡大学医学祭についてご報告致します。昨年度医学祭実行委員会から今年1月に引き継ぎを行い、約9か月の準備期間を経て本番を迎えました。本格的な準備は4年生になってからであり、勉強、部活、医学祭準備を同時に行うので、すべてをこなすことは大変でしたが充実したものでした。医学祭実行委員会は総務、パンフレット、会計の3つの部署に分かれ医学祭を企画しました。各々が自分たちの仕事を行い、他の部署と連携をとるという形で全体が1つのチームとなり医学祭を企画できたことで、自分たちの学年が1つになったことが1番の財産だと思います。私個人は67人という組織をまとめるという経験ができたことが本当に勉強になりました。個人を活かすことと全体を1つにまとめるという相反する行為は難しいもので、結局のとこ

ろ最善よりも各々の妥協点を見つけるというものになってしまいました。しかし皆が協力し自分の主張より全体の輪を考えたことで1つの組織となりました。私たちは将来医師となり病院という組織に属することになりますが、「医学祭」という高々学生のイベントではありますが、「個人を活かすこと」と「チームとしてまとめること」という大事な概念を学ぶことができました。最後になりますが、私たちが行う医学祭はOB/OGの先生方や地域の皆様のご協力があって執り行っております。これで次の学年に医学祭実行委員の仕事にバトンタッチしますが、来年度以降もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。稚拙な文章で申し訳ありませんがこれで本年度医学祭のご報告を終わります。

第34回福岡大学医学部医学祭実行委員会
委員長 標 玲央名

福岡大学医学部同窓会 第34回 烏帽子会総会

開催日

平成27年 7月4日(土)
5:00PM～9:00PM

会場

ソラリア西鉄ホテル

烏帽子会会報第57号

発行日 平成26年11月15日
発行人 高木 忠博
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷(株)
福岡市中央区長浜2-1-30
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901